

1 校内の体制づくり

(1) 組織づくり

キャリア教育は、学校全体の教育活動を通して取り組んでこそ、そのねらいを達成することができます。各学校では、校長の方針に基づき、全教職員が協力してキャリア教育推進のために協働できる組織（仮称：キャリア教育推進委員会）や体制づくりが必要です。

①児童生徒に対する指導体制

ア 小学校における指導体制

小学校では、キャリア教育の全体計画及び年間指導計画の作成や実施・評価、各分担及び学年間の連絡・調整、実践上の課題解決や改善等を図るために、関係教職員による組織づくりが必要です。

組織の構成については、学校によって違いがあり、その役割としては、関係教職員の連絡や調整、キャリア教育推進委員会の円滑な運営を図るほか、全体計画をはじめとする各種計画の作成・運用・評価についての調整などが考えられます。また、校外の支援者との連携のためにコーディネーター役の教員を置くことも有効です。

イ 中学校における指導体制

中学校においても、各教職員は、キャリア教育について様々な役割を担います。学級担任、教科担任、学校行事や生徒会活動の担当教諭、体験活動など学校外との連携を担当する教諭など、複数の教職員が連携してキャリア教育に取り組んでいくには、既存の組織（進路指導部など）の活用や、既存の組織を横断的に繋ぐ組織の立ち上げなど、全校規模で推進できるような指導体制を、各校が工夫を凝らして整備していくことが必要となります。

ウ 高等学校における指導体制

高等学校では、従来の学年や分掌を超えた、推進組織や体制づくりの視点が必要です。

学校全体でキャリア教育を推進するということは、多くの担当者が様々な場面でキャリア教育を推進していくということです。このような様々な活動がどのように実施され展開されているかを全教職員が理解し把握しておくことが、効果的なキャリア教育の推進には必要となります。



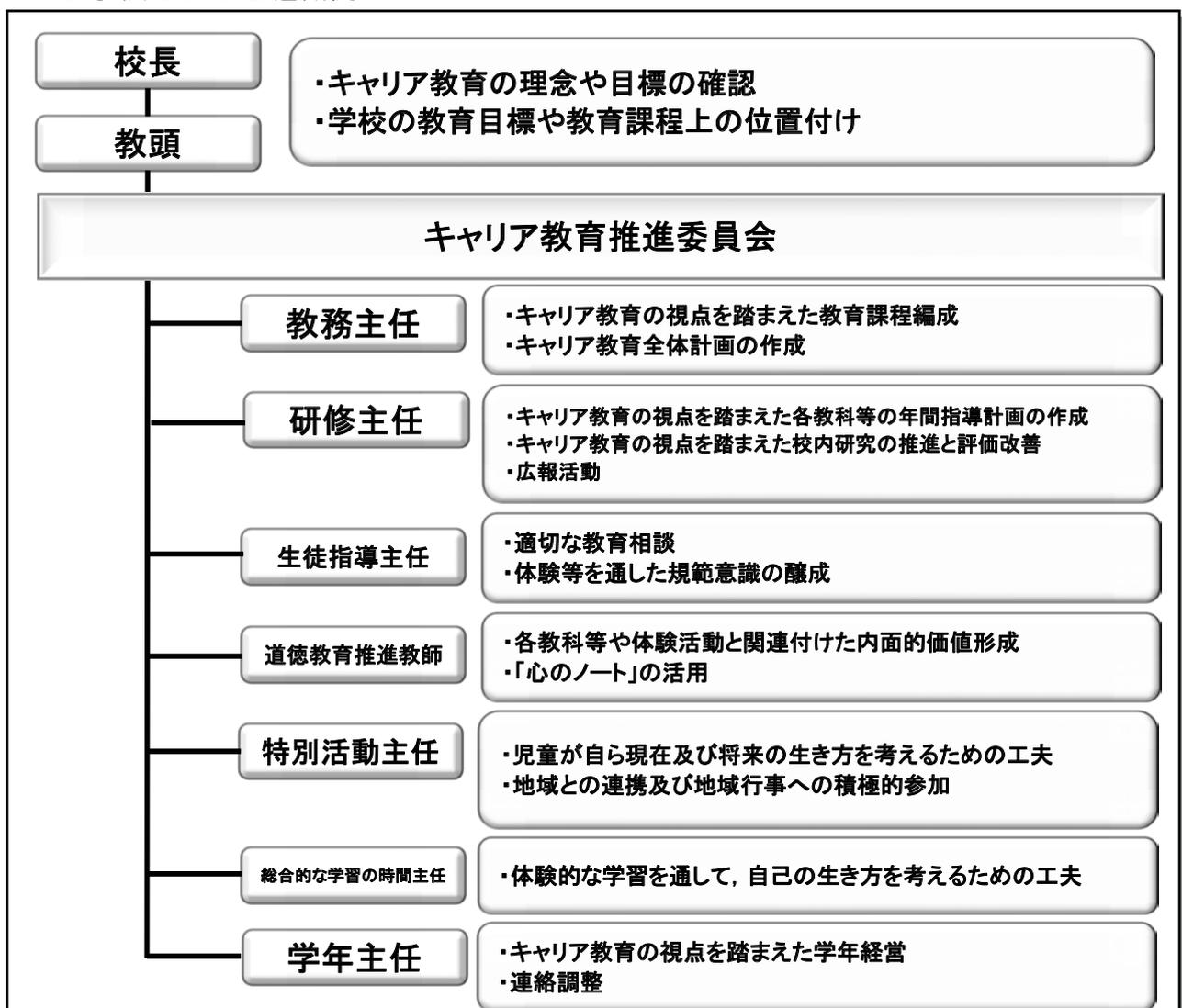
②実践を支える運営体制

キャリア教育では、複数の教員による指導や校外の支援者との協力的な指導が必要となります。キャリア教育推進委員会等の組織を運営していくに当たっては、各校の実情によって様々な工夫が必要です。

一人の教員が1つの学級の指導を行うことが多い小学校では、指導内容や指導方法をめぐって、指導する教員が気軽に相談できる仕組みを組織に位置付けておくことが求められます。また、教科担任が指導を行うことの多い中学校や高等学校では、キャリア教育を断片的な推進にとどめないために、教育活動全体を捉えて、立案や運営ができる組織にしていく必要があります。

いずれの場合も、校長を頂点としたキャリア教育推進委員会等の校内組織を整え、運営体制をしっかりとさせる必要があります。そして、この運営体制によって、キャリア教育の全体計画や年間指導計画の作成と実施、連携機関との連絡・調整、児童生徒への直接の指導、実践上の課題解決や改善、キャリア教育の評価、指導に必要な施設・設備の調整や予算の配分や執行等を行っていくこととなります。

小学校における組織例



「キャリア教育推進部会を位置付けた」組織例

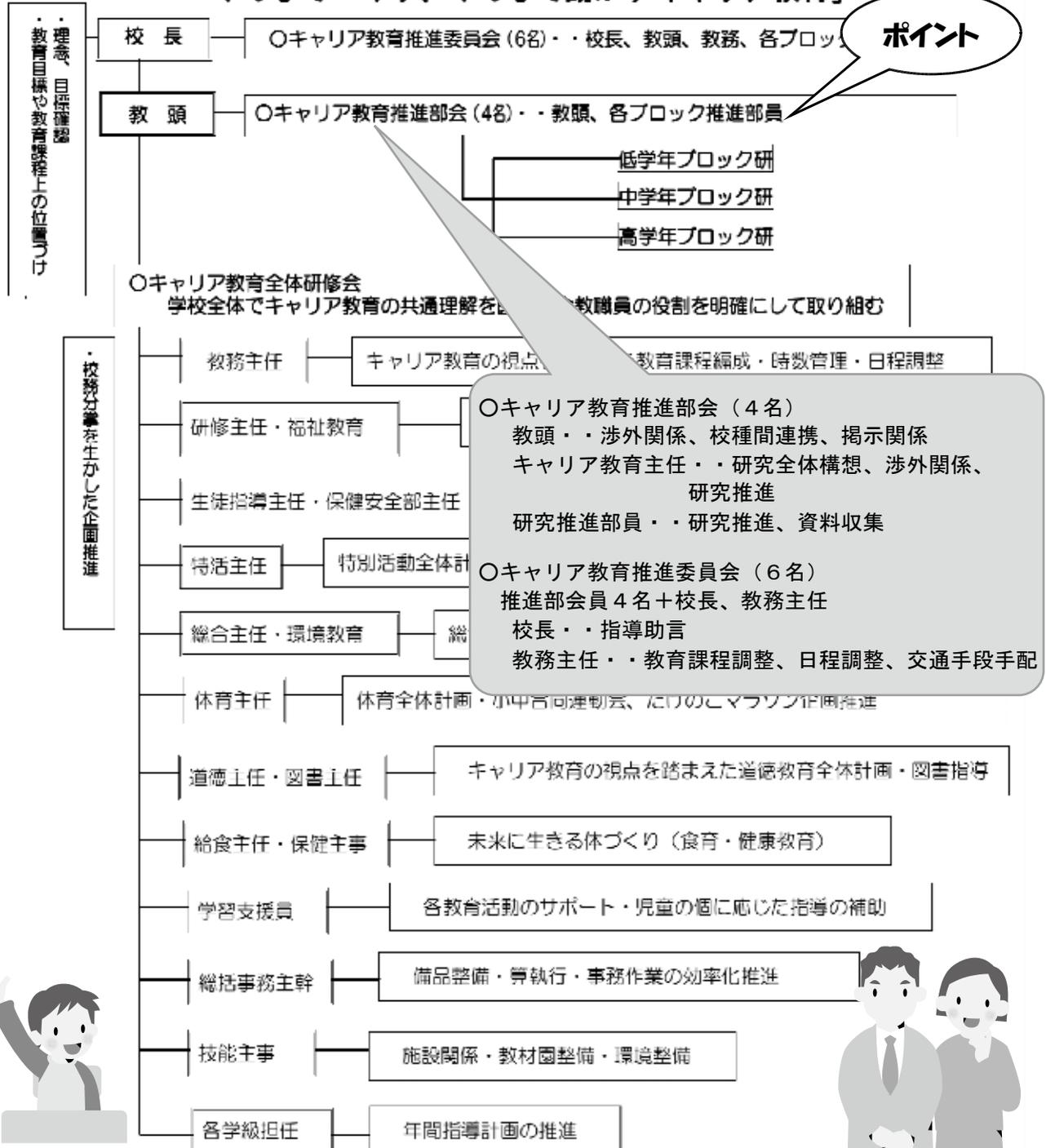
平川市立碓ヶ関小学校

■ポイント

キャリア教育推進部会（教頭＋低学年、中学年、高学年から各1名）が、キャリア教育の全体計画及び年間指導計画の実施や評価、学年間の連絡・調整、実践上の課題解決や改善等を図る中心的な役割を担っています。

☆平成 24 年度キャリア教育推進基本方針

「みんなでつくり、みんなで動かすキャリア教育」

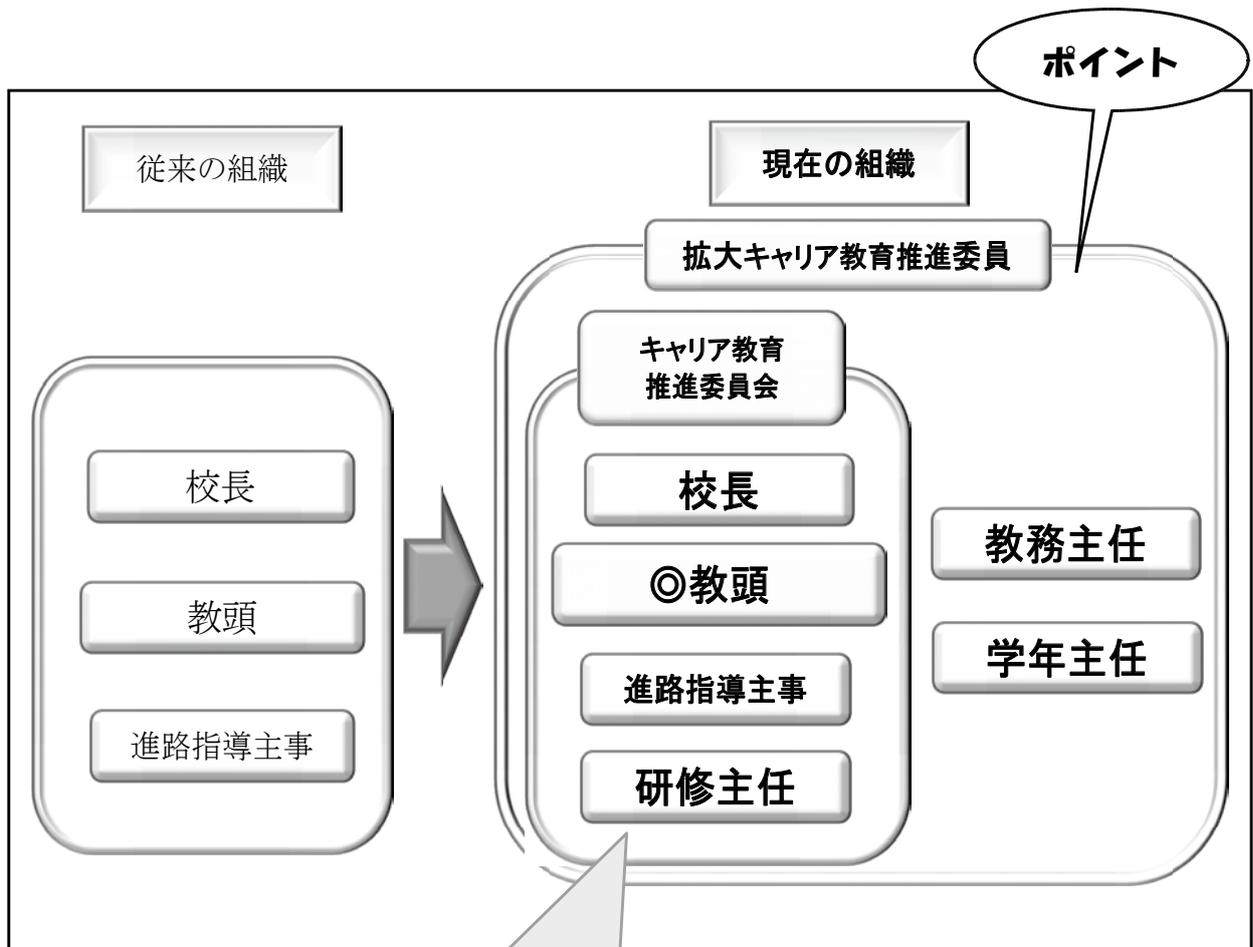


「キャリア教育推進委員会を中心とした」組織例

平川市立碓ヶ関中学校

■ポイント

教頭を中核とした、キャリア教育推進委員会を組織し、進路指導主事や研修主任等のモデルリーダーを活性化させるための組織づくりをしています。



キャリア教育推進委員会

- | | |
|--------|---------------------------|
| 校長 | ・・・指導、助言 |
| 教頭 | ・・・研究全体構想・計画、渉外全般、校種間連携窓口 |
| 進路指導主事 | ・・・研究推進、資料及び情報交換、卒業生窓口 |
| 研修主任 | ・・・教科及び領域の研修をキャリアの視点で推進 |

「自校の実態に応じた」組織体制

青森県立板柳高等学校・青森県立弘前実業高等学校

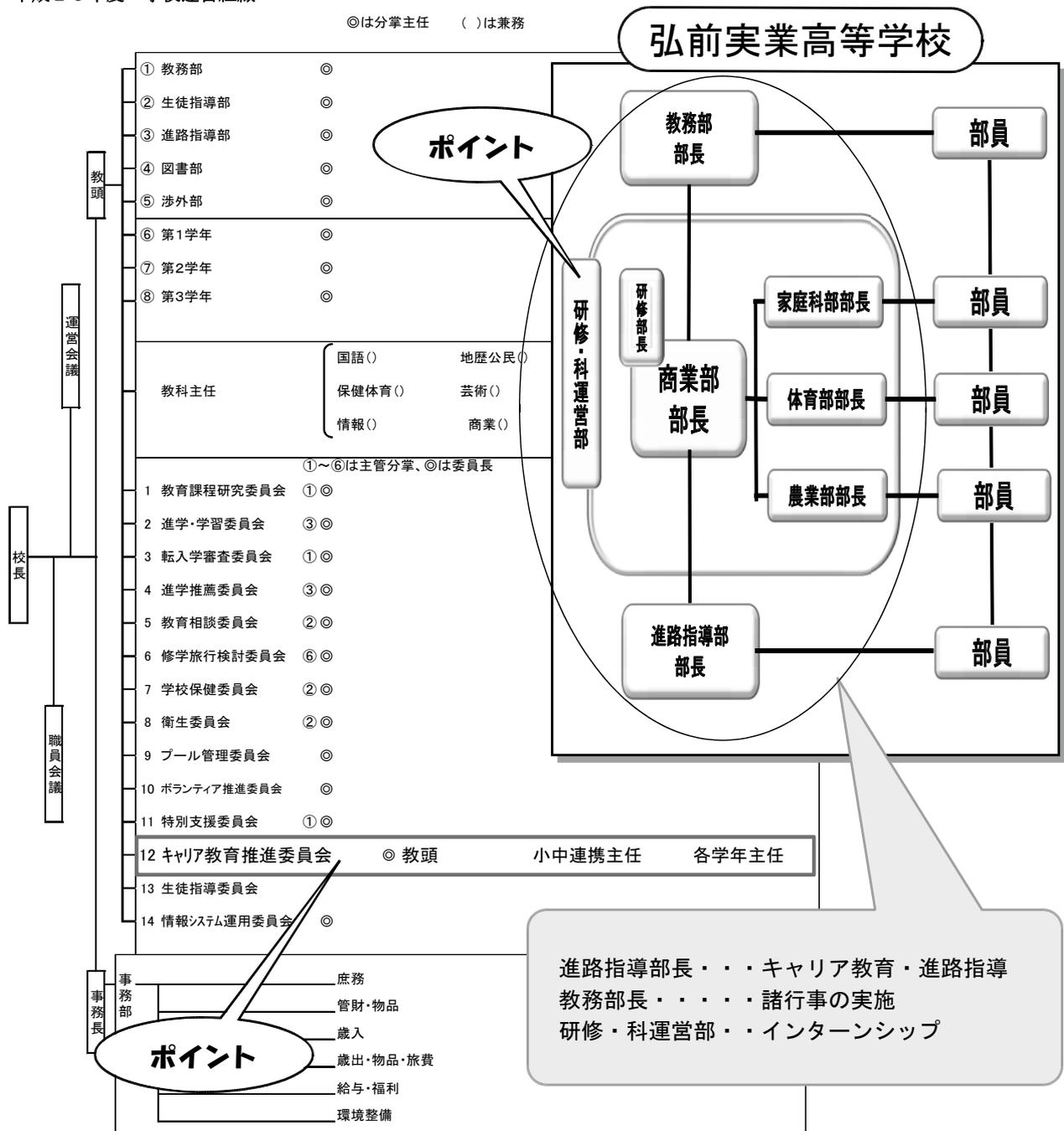
■ポイント

- ・弘前実業高校は、研修・科運営部を中心に5部1課を横断的につないだ組織づくりに取り組んでいます。
- ・板柳高校は、教頭を主任としたキャリア教育推進委員会を組織しています。

板柳高等学校

平成25年度 学校運営組織

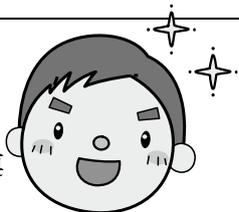
◎は分掌主任 ()は兼務



(2) 計画づくり

①全体計画

キャリア教育は、特定の活動や指導方法に限定されるものではなく、学校教育全体の活動を通じて体系的に行われるものです。各学校においては、児童生徒や地域の実態に応じて学校ごとに焦点化・重点化して、全体計画の作成に当たっていくことが望まれます。全体計画に盛り込むべき項目の例は、以下のとおりです。

- 
- ① 必須の要件として記すべきことから
 - ・各学校において定めるキャリア教育の目標
 - ・教育内容と方法
 - ・育成すべき能力や態度〈基礎的・汎用的能力〉
 - ・各教科等との関連
 - ② 基本的な内容や方針等を概括的に示すことから
 - ・学習活動
 - ・指導体制
 - ・学習の評価
 - ③ その他、各学校が全体計画を示す上で必要と考えることから
 - ・学校の教育目標
 - ・当該年度の重点目標
 - ・地域の実態と願い
 - ・児童生徒の実態
 - ・教職員の願い
 - ・保護者の願い
 - ・校区小・中・高等学校との連携

ア 各学校において定めるキャリア教育の目標の設定

キャリア教育の計画を立案するに当たっては、教育目標を踏まえつつ、自校の児童生徒におけるキャリア発達上の課題、育成すべき能力や態度の明確な把握とその焦点化・重点化に基づいて、自校のキャリア教育の目標を設定する必要があります。

イ 育成したい能力や態度の設定

各校の児童生徒の実態を踏まえ、学校ごとに育成しようとする能力や態度の目標を定めることが重要です。基礎的・汎用的能力は4つの能力によって構成されますが、これらの能力は、包括的な能力概念であり、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあります。青森県教育委員会が目指す「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度及びそれらを支える心」も同様です。これらの能力をどのようなまとまりで、どの程度身に付けさせるかは、学校や地域の特色等によって異なります。これらの能力を参考にしつつ、それぞれの課題を踏まえて、具体的な能力を目標として設定することが重要です。そのためには、実態を調査し、その結果をもとに、自校で育成すべき能力や態度を重点化していく必要があります。

ウ 教育課程における位置付け

各学校のキャリア教育の基本的な在り方を、学校の特色や教育目標に基づいて教育課程に明確に位置付けるべきであり、これらを通じて、全体的な方針や計画を定めておくことが重要です。また、キャリア教育を学校全体で推進するためには、キャリア教育の全体計画やそれを具体化した年間指導計画を作成することが不可欠です。

小学校のキャリア教育全体計画例 ①

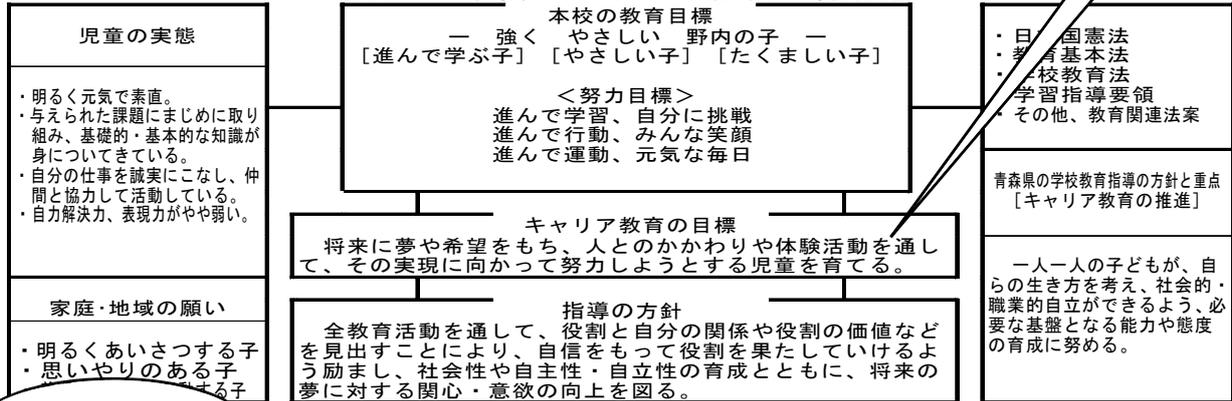
青森市立野内小学校

■ポイント

- ・児童の実態、教育目標から、キャリア教育の目標を設定しています。
- ・青森県教育委員会が目指す「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度」を参考に、本校で育成したい能力を明らかにしています。

ポイント

平成25年度 キャリア教育全体計画



- ・日 国憲法
 - ・教 育基本法
 - ・学 校教育法
 - ・学 習指導要領
 - ・その他、教育関連法案
- 青森県の学校教育指導の方針と重点
【キャリア教育の推進】
- 一人一人の子どもが、自らの生き方を考え、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。

ポイント

【発達段階に応じた諸能力の目標】

	低学年	中学年	高学年
① 自己を見つめる力	自分のよさを知り、できることが増える喜びを味わいながら、意欲を持って行動しようとする力	自分の感情を抑えたり、自分の短所に気づいたりしながら、困難があっても、できることから乗り越えたり変えていこうとしたりする力	自分の意見をもつと同時に自分と異なる意見も理解し、生活をよりよく変えていこうとする力
② 他者とつながる力	あいさつや返事の大切さに気づき、友達と仲良く遊び助け合おうとする力	自分の生活を支えてくれる人に感謝し、友達のよさを認め、励まし合いながら協力しようとする力	友達と力を合わせて活動し、自分の役割と責任を果たすことを通して、周囲への貢献について考ようとする力
③ 社会とつながる力	係や当番の活動に取り組みその意味や大切さを知ろうとする力	身近な人や地域から情報を得て、いろいろな職業や生き方があることを知ろうとする力	社会生活における色々な役割を知り、協力しながら仕事をしようとする力
④ 未来とつながる力	自分の好きなこと・大切なものを持つとうとする力	将来の夢や希望を持ち、日常生活や学習と将来の生き方を関連付けて考えようとする力	憧れとする職業を持ち、将来の夢を達成する上での課題を解決しようとする力
⑤ 動く／生かす力	約束やきまりを守り、自分のことは自分で行おうとする力	自分のやりたいこと・よいと思うこと・してはいけないことを判断し、行動しようとする力	生活や学習の課題に気づき、他者の意見も大事にしながら、解決しようとする力
⑥ 創り出す力	自分の考えや目標を大切に、失敗があっても様々なことに挑戦しようとする力	自分の考えだけでなく周囲の人々と協力し合いながら、失敗を恐れず行動しようとする力	自分の考えや他者の考えのよさを知り、よりよい発想を学習や生活に生かそうとする力

道徳の時間	特別活動 (学級活動・クラブ活動・児童会活動)	縦割り班活動	各教科
「勤労奉仕の精神」を学びその尊さを理解し、実践しようとする意欲を高める。	自分のよさを知り、進級・進学や将来に対し、「夢や希望」を持つ。	自分の役割について考え、「自分の役割を果たすこと」や「協力して仕事をすること」などの大切さを体感する。	体験活動や問題解決的な学習を通し、日常の学習が、自分の生活や将来につながっていることを理解させるとともに、「自分の思い・考え」を表す力を身に付け、自己実現のために学習していこうとする意欲を持つ。

保護者・地域との連携	隣接小学校・中学校・高校との連携
<ul style="list-style-type: none"> ・学区探検 ・昔遊び・おもちゃ作り等で地域の人たちと交流活動 ・シロウオ漁の見学・研究調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・東陽小学校 ・東中学校 ・合同宿泊体験学習の実施（他2校） ・授業参観（6年生） ・文化祭での作品展示

小学校のキャリア教育全体計画例 ②

南部町立剣吉小学校

■ポイント

自校の実態から、青森県教育委員会が目指す「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度」を参考に、「自校で育てたい資質、能力、態度」を別葉で作成しています。

キャリア教育 全体計画

南部町立剣吉小学校

学校の実態 児童の実態 保護者の願い 地域の願い	【教育目標】 志をもち、心豊かにたくましく生きる子	【育てたい児童像】 ○目標をもって生活する児童 ○何事にも懸命に取り組む児童 ○積み重ねを大切にできる児童 ○共に活動する仲間を思いやる児童 ○最後までやりぬくこと児童
	【重点目標】 自ら進んで学習すること、みんなのために活動することができる子の育成	

【キャリア教育の指導目標】 ①自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ②身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ③夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ④勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成
--

キャリア諸能力			
自己を見つめる力 ○自分自身を客観的・肯	つながる力 ○自己を見つめる力をも	創り出す力 ○自分や他者のよさを	動く・生かす力 ○仕事をする上での課

キャリア教育で培いたい資質、能力、態度

青森県が目指す 「キャリア教育で 培いたい 資質、能力、態度」	自己を 見つめる力	他者と 社会と 未来と つながる力			情報等を し、新たな たり、仕 たりする 発信する	
		○多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える力。	○自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成していく力。	○社会の中で「未来の自分」が果たすべき役割を考え、生き方に関する様々な情報を適切に選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。		
		低学年 (幼稚園含む) 自分のよさを知り、前向きに考えて行動しようとする力	あいさつや返事等をし、友だちと仲良く遊び、助け合おうとする力	係や当番の活動に取り組み、その意味や大切さを知ろうとする力		高学年 分の役割や責任を果たし、役立つを体得する。 団の中で自己を生かす。 会と自己のかかわりから、自らの夢望をふくらませる。
		中学年 自分の感情を抑えたり、自分の短所に気付いたりすることができ、できることから変えていこうとする力	自分を支えてくれる人に感謝し、友だちのよさを認め、励まし合いながら協力して取り組もうとする力	身近な地域からの情報を得て、いろいろな職業や生き方があることを知ろうとする力		高学年 会生活にはいろいろな役割があることその大切さが分かる。 事における役割の関連性や変化にく。 活動などで自分のやりたい係、やれな係を選ぶ。 来の夢や希望を持ち、実現を目指し力しようとする。
高学年 (中1含む) 自分らしさと同時に自分と異なる意見も理解し、生活をより良く変えていこうとする力	友だちと力を合わせて行動し、自分の役割と責任を果たし、周囲への貢献について考えようとする力	社会生活には、いろいろな役割があることを知り、仕事における役割の関連性や変化に気付こうとする力	憧れとする職業を持ち、将来の夢を達成する上で現実の問題を解決しようとする力			

・基礎的・基本的な力を身に付けさせることで児童の可能性を伸張させる。	知り、進んで働く態度を養う。 ・社会に奉仕する喜びを知り、公共のために役立つ実践意欲を培う。	の育成に資する活動を行う。 ・体験的な活動を行うことによって、学校生活に秩序と変化を与え、全校及び学年集団への所属感を深	組む態度を育てる。 ・自ら課題を見付け、学び、考え、体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成する。
------------------------------------	---	---	--

【総合】 び方やものの方を身に付問題解決や活動に主体的に取り	その他の教育活動 ・保護者、保育園、小・中・高等学校、地域社会との連携・交流を図り、地域ぐるみの活動を行う。 ・行事への参加や外部講師の招へい、地域の学習教材を生かす。
-----------------------------------	--

中学校のキャリア教育全体計画例 ①

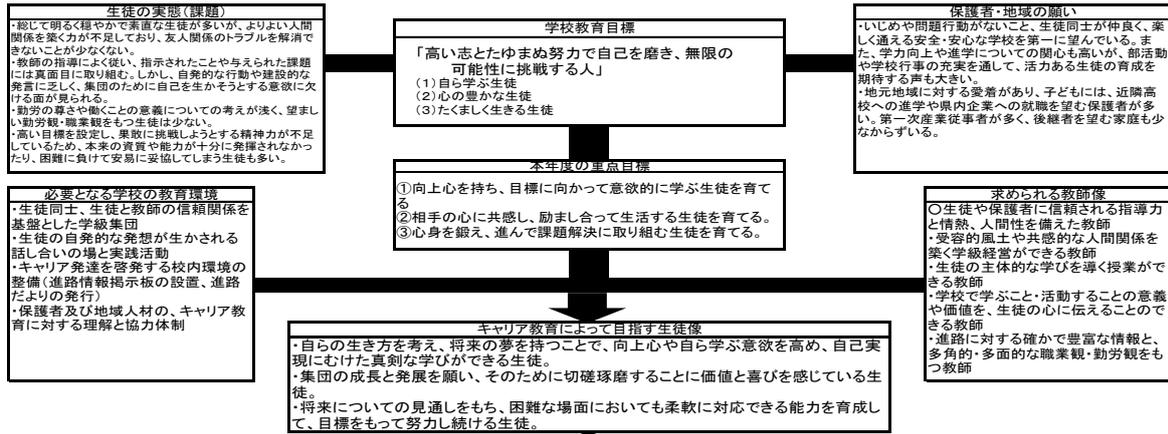
板柳町立板柳中学校

■ポイント

- 各学年の柱となる活動を、具体的に明記しています。
- キャリア教育の成果を評価する手だてを明記しています。

平成25年度 キャリア教育全体計画

板柳町立板柳中学校



本校におけるキャリア教育の全体目標
支え合う仲間を大切に、互いに切磋琢磨しながら、自己の可能性に挑戦する生徒の育成

育成すべき能力・態度(「基礎的・汎用的能力」分類)		
人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力
かかわる力・つながる力 適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しく、積極的な発言ができる。 ・相手の立場から、自分の考えを伝えることができる。 ・自分の考えを聞き、協力することができる。	見つめる力・高める力 自分の個性を自覚し、良さを伸ばすことができる。 ・興味や関心を生かし、自分で活動を選択できる。 ・自分の意志で決めたことについて、責任をもつことができる。	のりこえる力・やりぬく力 やらなければならない仕事や学習上での課題を発見することができる。 ・課題や問題に対して、より良い方法等を見つけていくことができる。 ・困難な状況でも解決に向けて努力することができる。
		キャリアプランニング能力 夢を描く力・夢をかなえる力 自分が果たすべき役割を理解し、主体的に実行することができる。 ・社会人としてのプランを描くことができる。 ・生涯にわたってたくましく生きるために、学ぶことと働くことの意義を、自己の生き方と重ねて考えることができる。

ポイント

各学年の柱となる活動		
第1学年	第2学年	第3学年
進路探索を始めよう ・4月:「中学校生活の目標を立てよう」(学活) ・5月:「自分を知らう」(学活) ・6月:「情報の集め方まとめ方」(総合) ・7月:「さまざまな職業を知ろう 職業調べ1」(総合) ・9月:「さまざまな職業を知ろう 職業調べ2」(総合) ・10月:「さまざまな職業を知ろう 職業人講話」(総合) ・11月:「地域フィールドワーク 町の働く人を知ろう」(総合) ・12月:「調べたことをまとめよう 板柳をPR」(総合) ・2月:「将来の夢を語ろう」(学活) ・3月:「先輩になる自分の決意」(学活)	進路計画を立てよう ・4月:「2年生としての生活のあり方」(学活) ・5月:「学習の重点や計画を考えよう」(学活) ・7月:「職場訪問から働く意義を考えよう」(総合) ・9月:「何のために働くのか」(学校行事) ・10月:「自分を生かす職業」(学活) ・11月:「自分を生かす生き方」(学活) ・12月:「何のために学ぶのか」(学活) ・2月:「進路情報の収集と活用」(学活) ・3月:「進路計画の検討と修正」(学活)	進路選択をしよう ・4月:「10年後の自分プランを描いてみよう」(学活) ・5月:「働くことと学ぶことについて考えよう」(学活) ・7月:「上級学校訪問・授業体験」 ・8月:「職業人として～職場体験～」(総合) ・10月:「高校進路説明会」(総合) ・11月:「先輩から学ぶ～高校生との交流～」(総合) ・12月:「進路決定をしよう」(学活) ・1月:「面接の達人になろう」(学活) ・3月:「卒業式」(学校行事)

各教科	柱となる活動を支える「各教科等における指導の方針・内容等」			総合的な学習の時間	その他の教育活動	
	道徳	特別活動 学校行事	生徒会活動			
・適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事をさせる。 ・自分と異なる意見を受け入れながら、自分の考えを適切に伝え、より良い人間関係を築くことができるよう、話し合い活動の指導を工夫する。 ・課題や問題解決のために、より良い方法等を見つけていくことができるよう、グループ協議の場面を工夫する。 ・学ぶことと働くことの意義を、自己の生き方と重ねて考えることができるような助言や説話を工夫する。	・1-(5)自分のよさや個性を見つめ、伸ばしていくようにする。 ・2-(5)それぞれの立場やものの見方、考え方を尊重する。 ・2-(1)礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。 ・3-(3)目指す生き方に近づこうと、良心を信じて行動する。 ・4-(4)集団の中で、自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上を目指す。 ・4-(5)勤労の尊さや意義を理解する。	・(1)一学年の総括と振り返りと仕事の分担。 ・(1)一学年生徒会活動への参加。 ・(2)一学年春の希望の悩み解決。 ・(2)一己及び他者の個性を理解。 ・(2)一己の個性の理解。 ・(3)一己の進路適性の吟味。 ・(3)一己の進路選択と進路設計。	・1学年「職業調べ」 ・2学年「職場訪問活動」 ・3学年「職場体験活動」 ・入学式(決意発表) ・体育大会 ・小中高合同地域清掃ボランティア活動 ・板中祭(舞台発表、各係展示、合唱コンクール) ・卒業式(旗立の言葉)	・新入生オリエンテーション(部活動・委員会活動紹介) ・前期生徒総会 ・体育大会の企画、準備、運営 ・中体連壮行式、準備、運営 ・生徒会役員選挙 ・後期生徒総会	<1学年> ・「様々な職業を知ろう」(職業調べ) ・「調べたこと、学んだことをレポートにまとめよう」 <2学年> ・「職場を訪問し、職業人から学ぼう」 ・「夜間中学の生徒から学ぼう」 ・「学んだこと・感じたことをレポートにまとめよう」 <3学年> ・「就労の現実を知ろう」 ・「体験したこと、学んだことをレポートにまとめよう」	・生徒の創意工夫を生かした係活動の活性化に努める。 ・一人一役の当番活動を通して、自己の役割の自覚と集団生活での責任の大切さを感じさせる。 ・生徒のキャリア発達が促されるよう、朝の会、帰りの会のプログラムの工夫

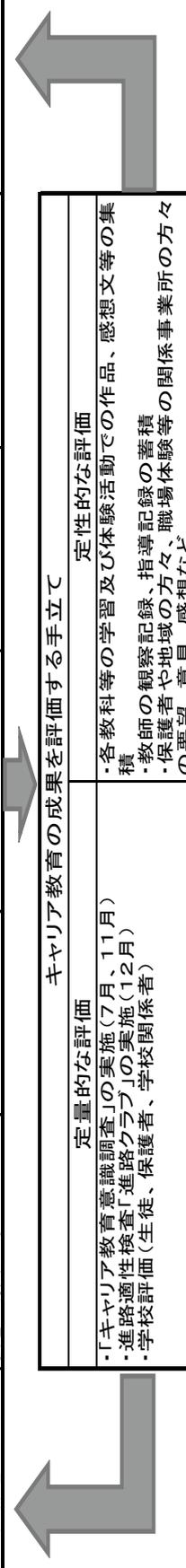
ポイント

キャリア教育の成果を評価する手だて	
定量的な評価	定性的な評価
・「キャリア教育意識調査」の実施(7月、11月) ・進路適性検査「進路クラブ」の実施(12月) ・学校評価(生徒、保護者、学校関係者)	・各教科等の学習及び体験活動での作品、感想文等の集積 ・教師の観察記録、指導記録の蓄積 ・保護者や地域の方々、職場体験等の関係事業所の方々の要望、意見、感想など

※ ポイントの拡大は次のページを見て下さい!

各学年の柱となる活動		
第1学年	第2学年	第3学年
<p>進路探索を始めよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月:「中学校生活の目標を立てよう」(学活) ・5月:「自分を知らう」(学活) ・6月:「情報の集め方まとめ方」(総合) ・7月:「さまざまな職業を知ろう 職業調べ1」(総合) ・9月:「さまざまな職業を知ろう 職業調べ2」(総合) ・10月:「さまざまな職業を知ろう 職業人講話」(総合) ・11月:「地域フィールドワーク 町の働く人を知ろう」(総合) ・12月:「調べたことをまとめよう 板柳をPR」(総合) ・2月:「将来の夢を語ろう」(学活) ・3月:「先輩になる自分の決意」(学活) 	<p>進路計画を立てよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月:「2年生としての生活のあり方」(学活) ・5月:「学習の重点や計画を考えよう」(学活) ・7月:「職場訪問から働く意義を考えよう」(総合) ・9月:「何のために働くのか」(学校行事) ・10月:「自分を生かす職業」(学活) ・11月:「自分を生かす生き方」(学活) ・12月:「何のために学ぶのか」(学活) ・2月:「進路情報の収集と活用」(学活) ・3月:「進路計画の検討と修正」(学活) 	<p>進路選択をしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月:「10年後の自分プランを描いてみよう」(学活) ・5月:「働くことと学ぶことについて考えよう」(学活) ・7月:「上級学校訪問・授業体験」 ・8月:「職業人として～職場体験～」(総合) ・10月:「高校進路説明会」(総合) ・11月:「先輩から学ぶ～高校生との交流～」(総合) ・12月:「進路決定をしよう」(学活) ・1月:「面接の達人になろう」(学活) ・3月:「卒業式」(学校行事)

柱となる活動を支える「各教科等における指導の方針・内容等」					
各教科	道徳	特別活動		総合的な学習の時間	その他の教育活動
		学級活動	生徒会活動		
<p>適切な言葉遣いで、相手や場面に応じた礼儀正しい挨拶や返事をさせる。 自分と異なる意見を受け入れながら、自分の考えを適切に伝え、より良い人間関係を築くことができるよう、話し合い活動の指導を工夫する。 課題や問題解決のために、より良い方法等を見つけることができるよう、グループ協議の場を工夫する。 学ぶことや働くことの意味を、自己の生き方と重ねて考えることができるよう、動言や説話を工夫する。</p>	<p>1-(5)自分のよさや個性を誇り、伸ばしていくようにする。 2-(5)それぞれの立場やものの見方、考え方を尊重する。 2-(1)礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。 3-(3)目指す生き方に近づこうと、良心を信じて行動する。 4-(4)集団の中で、自分の役割と責任を自覚し、集団生活の向上を目指す。 4-(5)勤労の尊さや意義を理解する。</p>	<p>1 学年「職業調べ」 2 学年「職場訪問活動」 3 学年「職場体験活動」 入学式(決意発表) 体育大会 小中高合同地域清掃ボランティア活動 中祭(発表会、各係展示、合唱コンクール) 卒業式(巣立ちの言葉)</p>	<p>新入生オリエンテーション(部活動・委員会活動紹介) 前期生徒総会 準備、運営 中体連壮行式 板中祭の企画、準備、運営 生徒会役員選挙 後期生徒総会</p>	<p><1 学年> ・様々な職業を知ろう(職業調べ) ・調べたこと、学んだことをレポートにまとめよう <2 学年> ・職場を訪問し、職業人から学ぼう ・夜間中学の生徒から学ぼう ・学んだこと・感じたことをレポートにまとめよう <3 学年> ・就労の実現を知ろう(職場体験) ・体験したこと、学んだことをレポートにまとめよう</p>	<p>生徒の創意工夫を生かした係活動の活性化に努める。 一人一役の当番活動を通して、自己の役割の自覚と集団生活での責任の大切さを感じさせる。 生徒のキャリア発達が促されるよう、朝の会、帰りの会のプログラムの工夫に努める。 清掃活動を通して、勤労観の形成を支援する。 学級通信・学校だより等を活用し、保護者への啓発に努める。</p>



キャリア教育の成果を評価する手立て	
定量的な評価	定性的な評価
<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育意識調査」の実施(7月、11月) ・進路適性検査「進路クラブ」の実施(12月) ・学校評価(生徒、保護者、学校関係者) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の学習及び体験活動での作品、感想文等の集積 ・教師の観察記録、指導記録の蓄積 ・保護者や地域の方々、職場体験等の関係事業所の方々の要望、意見、感想など

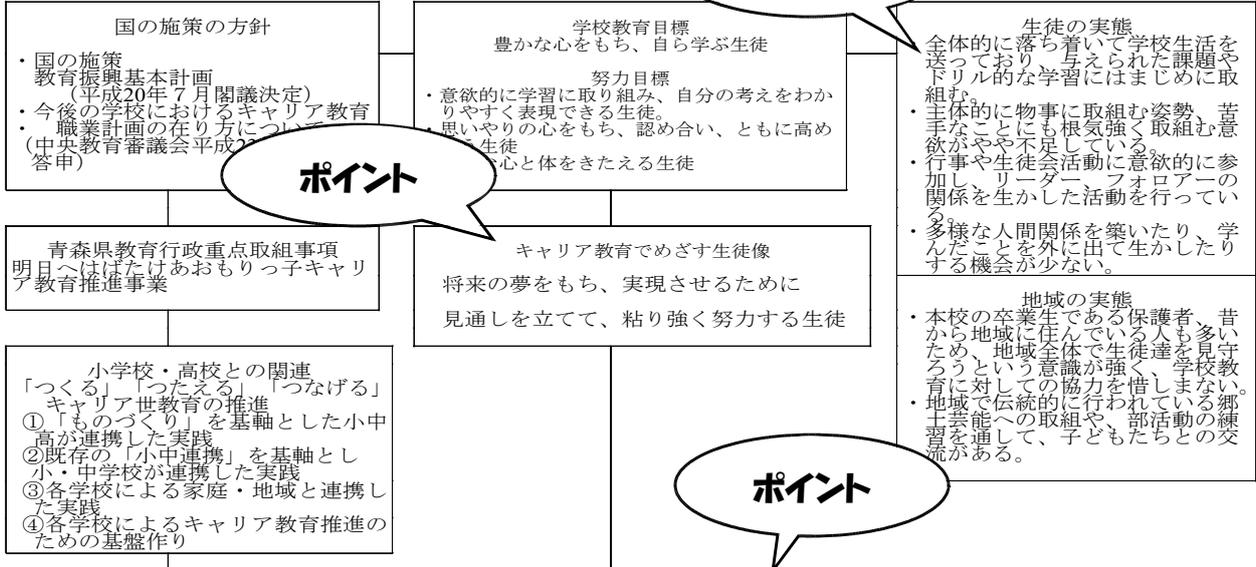
中学校のキャリア教育全体計画例 ②

青森市立東中学校

■ポイント

生徒の課題を見つけ出し、どのような生徒を育てたいかを明確にし、キャリア教育の目標を設定しています。

ポイント



ポイント

キャリア教育指導目標

- 一人一人のキャリア発達への支援とその的確な把握に努める。
- キャリアに関する学習と教科等の学習と相互補完性を重視するとともに、体験や講話を通し産業や進路への関心意欲の高揚と学習意欲の向上に努める。
- 将来、職業人として自立し、時代の変化に柔軟に対応できる幅広い能力の育成に努める。
- 働くことの意義を理解させ、自立意識の涵養と豊かな人間性を育成する。

自己を見つめる力	つながる力			動く／生かす力	創り出す力
自分自身を客観的に見つめ、肯定的に見つめ、自分がしたこと、できることを理解し、それに向かって自己をコントロールし、主体的に学んだり行動したりする。	自己を見つめる力をもとに、他者、自分を取りまく環境（社会）、将来を見通した生き方（未来）とのかかわり方を考え、積極的につなげていこうとする力。	他者とつながる力	社会とつながる力	未来とつながる力	自分や他者の良さを踏まえ、経験や様々な情報等を総合的に活用し、新たな価値を生み出したり、仕組みを創り出したりする力。またそれを発信する力。
	他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝える力。	自分の置かれている状況を受け止め、他者と協力・協働して社会を積極的に形成する力。	「未来の自分」が果たすべき役割を考え、様々な情報を適切に選択・活用しながら、主体的に判断してキャリアを形成していく力。		

各学年の目標		
1年	2年	3年
自分の能力・適性について理解させ、将来の進路について関心を高め、自己を知る必要性を理解させる。	自分の進路を計画し、吟味・検討させるとともに、職業や上級学校の理解を深めさせる。	将来の進路を見通したうえで、具体的な計画を立て、自分の進路を選択し、自己実現を果たそうとする意欲や態度を養う。

各教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間・その他
<ul style="list-style-type: none"> 成就感・達成感や自己有用感を育む授業に心がけ、将来の職業生活に必要な基礎的知識・技能の習得を促す。 教科指導の中で自己の能力・適性を知り、それを伸ばしていく能力を育む。 学ぶ喜びをもち、主体的に学習する（やる気）生徒を育成する。 キャリア教育で育むべき4領域能力を各教科の中で育成するよう授業改善を図る。 言語活動を取り入れた取組を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し、集団生活の向上に努めようとする態度を育成する。 勤労の尊さや意義を理解するとともに、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努めようとする道徳的実践力を育成する。 発達段階に応じて指導内容を重点化し、体験活動を推進する。 先人の伝記、スポーツなど感動を覚える教材を活用する。 郷土資料を活用し、ふるさとを誇りに思う気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動：生活上の諸問題の解決、組織づくりや仕事の分担処理などの活動、個人および社会の一員としての在り方、学業生活の充実および将来の生き方と進路の適切な選択に関することなどの指導の充実を図る。 生徒会活動：学校生活の充実・改善向上を図る活動やボランティア活動を通して課題対応能力などを培い、個性の伸長や社会性を高める。 職業や進路に関わる啓発的な体験やボランティア活動などの自主的・自発的な活動を通し、主体的態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。 職場訪問・体験学習などの体験的な学習を充実させる。 集団生活への適応と進路の選択にかかわるガイダンス機能の充実を図る。 部活動は、心・体を高める場として重要であり、生徒に積極的な活動を促す。 積極的な生徒指導を推進し、豊かな人間性や社会性、集団生活に必要な規範意識やマナーを育み、生徒一人一人の自己指導能力を増やす。

地域・他機関との連携

- 地元事業所との連携
- キャリア教育支援機関の活用
- 東雲講話・発表の活用

保護者との連携

- 各種便りを通しての保護者への積極的な働きかけ
- 家庭の役割の自覚と学校教育への積極的な参画

個別指導

- 年1回以上のキャリアアカウンティングの実施（教育相談の中で）目標設定と実践力の向上

高等学校のキャリア教育全体計画例

青森県立青森工業高等学校

■ポイント

基礎的・汎用的能力を参考に、キャリア教育指導目標を設定し、青森県教育委員会が目指す「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度及びそれを支える心」を参考に、「生徒に付けたい力」を明確にしています。また、小学校・中学校との「縦の連携」を具体的に示しています。

平成25年度 キャリア教育全体計画

青森県立青森工業高等学校

ポイント

【校訓】 協和 創造 勤労

【教育目標】

- 社会のよき形成者となるため、人格の陶冶に努めさせると共に、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する。
- 勤労を尊ぶ自然を愛し、自主的・積極的で、心身ともに健全な工業技術者を育成する。

【キャリア教育でめざす生徒像】

- ものづくり活動を通し、実践的技術者としての資質向上を図り、地域社会へ貢献できる生徒

【キャリア教育指導目標】

- 体験を通した自己理解と自己肯定感の醸成《自己理解・自己管理能力》
- 実習や課題研究などグループ学習を通したコミュニケーション能力の育成《人間関係形成・社会形成能力》
- 職業理解を通して自己の生き方を考える《キャリアプランニング能力》
- 技能習得を通した課題解決能力の育成《課題対応能力》

ポイント

自己を見つめる力	つながる力			動く／生かす力	創り出す力
	他者とつながる力	社会とつながる力	未来とつながる力		
工業に関する広い視野と取り巻く状況の変化に対応し、必要とされる知識と技術を主体的に身に付けようとする力。	自己を見つめる力をもとに、他者、自分を取りまく環境(社会)、将来を見通した生き方(未来)とのかかわり方を考え、積極的につなげていこうとする力。	自分の置かれている状況を受け止め、他者と協力・協働して社会を積極的に形成する力。	「未来の自分」が果たすべき役割を考え、様々な情報を適切に選択・活用しながら、主体的に判断してキャリアを形成していく力。	仕事をする上での課題を発見・分析し、適切な計画を立て、処理・解決する力。	自分や他者の良さを踏まえ、経験や情報等を総合的に活用し、新たな価値を生み出したり、仕組みを創り出したりする力。またそれを発信する力。

各学年の目標

1 学年	2 学年	3 学年
自己の能力や適性を理解すると共に、基礎基本の充実を図り、将来の進路達成に関心を高め進路選択の幅を広げる。	学習内容の発展とインターンシップを中心として職業観・勤労観の育成を図りながら、進路実現を目指す。	自分の適性・能力にあった進路選択と準備をし、自己実現のための具体的な目標を定め、実行する。

工業推進委員会	特別活動	総合的な学習の時間(課題研究)
<ul style="list-style-type: none"> 達成感・充実感を体験させ、自分の可能性を切り拓く自信を導き、学習意欲を喚起させる。 地域交流や各種事業に参加し、工業技術の現状や果たすべき役割を正しく理解できる生徒の育成を図る。(電気科)(電子科) 創造的に「ものづくり」ができる生徒の育成を図る。(機械) 自ら学ぶ意欲と社会の変化に対応できる生徒の育成を図る。(建築) 基礎的な知識と技術を身に付け技術の変化に対応できる生徒の育成を図る。(電子機械科)(情報技術科) 環境に配慮し、都市づくりを広い視野を持って創造できる生徒の育成を図る(都市環境科) 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動 ホームルームを通じ、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として諸問題を解決しようとする自主的実践的態度や健全な生活態度を育てる。 生徒会活動 学校生活の充実・改善向上を図る活動を行う。特に異年齢集団との交流、ボランティア活動を通じて人間としての在り方生き方を、望ましい人間関係を深める態度の育成を図る。 学校行事 集団への所属感や連帯感を通し、望ましい人間関係を形成し、社会生活を築くことができる自主的、実践的態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探究活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えさせる。 就業体験(インターンシップ)を通し体験的な学習を充実させる。 体験的学習を通し、勤労観、責任感の体得を図る。 「ものづくり」をとおして協力・協働する中で自分の役割・立場を考えさせる。 課題を見つけ、設定し個人やグループで主体的に問題解決に取り組む姿勢を育成する。 豊かな人間性や社会規範意識やマナー

ポイント

地域・他機関との「横の連携」	家庭との「横の連携」	小学校・中学校との「縦の連携」
<ul style="list-style-type: none"> 地元事業所とインターンシップ(就業体験)による連携 地域の行事を通じての伝統文化継承(ねぶた運行) ごみひろいや「製作ゴミ箱」提供等ボランティア活動 先端技術を有する企業見学 社会人講師による出前授業 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者会の実施 交通安全街頭指導 地域行事合同巡回 学校、学年、学科、学級通信による情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりの出前技術指導(金魚ねぶたづくり) 小学生による高校訪問(校舎施設案内) 高校生によるキャリア講話(ロボット製作) 高等学校での「ものづくり体験教室」開催

各学年の重点指導事項を明記した全体計画例

青森県立弘前実業高等学校

■ポイント

生徒の実態（課題）から、キャリア教育で目指す弘実生像を導き出し、キャリア教育の重点目標を設定しています。また、青森県教育委員会が目指す「キャリア教育で培いたい資質、能力、態度及びそれらを支える心」を参考に、各学年の実態に基づいた目標を設定しています。

ポイント

2023年度キャリア教育全体計画

青森県立弘前実業高等学校

生徒の実態

- 部活動が盛んであり、文武両面に努力する生徒が多い。
- 6学科のそれぞれの専門的知識を学ぼうと意欲的な生徒が多い。
- 規範意識が高く、自らが豊かな高校生活を送ろうと行動している生徒が多い。
- 部活動を通してキャリア教育の主眼である生き抜く力を培っている生徒が多く、本校卒業後に即社会人として多方面で活躍している。

学校教育目標・学校努力目標

本校は、農業、商業、家庭並びに体育に関する学科を持ち、専門的な学習や実践的な活動を通して、人間性豊かで、社会に貢献できる人材の育成を目的とした男女共学の総合専門学校である。6学科において、それぞれの特色を十分発揮しながら、融和共同のもと相互に協調し、生きる力を育み、自己実現の達成に向けて、生涯を通じて「命と価値」を追求する人間の育成を目指している。

保護者・地域の実態

- 学校との協力関係を密にして一人一人の生徒の特徴を理解し、指導と助言をし、生徒の育成に努めて欲しいという期待が大きい。
- 能力や適正を把握し、適切な指導を願っている。
- 専門的知識と専門的技術の習得に期待感がある。

ポイント

キャリア教育の全体目標

地域や本校の特色を生かし、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要となる能力や態度を育てる。

教師の願い

- 基本的生活習慣をしっかりと身に付け、自他・公私の区別を理解し、将来の社会人としての基盤を確立して欲しい。
- 本校の教育目標である生涯を通じて「命と価値」を追求する人間を目指し、高校生活で学んだことをこれからの人生の中で生かして欲しい。
- これからのグローバルな社会で生き抜いていくために、英語力・コミュニケーション能力の向上心と部活動等で忍耐力を培って欲しい。

ポイント

キャリア教育で目指す弘実生像

生きる主体としての自己を確立し、自らの人間的・職業的・社会的自立ができるよう、必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。

- 1 生徒一人一人が、自らの生き方を考え、社会的・職業的に自立ができるように、必要な基盤となる能力や態度の育成に努める。
- 2 生徒一人一人が主体的に進路選択ができるように、様々な活動を通してキャリア教育の充実を努める。
- 3 人間関係形成・社会形成能力を基盤とし、適切な勤労観・職業観の育成に努める。
- 4 小・中学生に教えることで、自らの知識と技術を再確認し、自己有用感の醸成に努める。

重点指導事項

キャリア教育で培いたい資質、能力、態度及びそれらを支える心

学年	自己有用感	ふるさと意識	自己を見つめる力	つながる力	動く/生きず力	創り出す力
1年	基本的な生活習慣を確立し、規範意識を育み、自分に与えられた役割を工夫して最後までやり遂げようとする心。	地域の特性や文化などの良さを発見し、ふるさとを誇りに思う心。	社会における自分の役割を理解し、自分の特性や個性を伸ばし、将来の生き方を主体的に考える力。	自分のよさや個性、他者への配慮しながら積極的に人間関係を築こうとする力。	よりよい生活や学習、生き方を目標として生活の中に積極的な課題を見いだそうとする力。	環境を最大限に生かしながら、企画立案し、よりよい物を創り出す力。
2年	協調性や受容力を育み、集団の中で役割や様々な経験が社会に出たときにどの様に役立つかを考えようとする心。	学習したことや経験したことを、地域に発信しようとする心。	互いのよさを生かしながら、率直なことを、自らの思考や感情をコメント・ロールしようとする心。	インターンシップや奉仕活動等の種々の体験的な学習を通して、住んでいる地域の特色や職種をこの共通の意義を理解する力。	社会を知り、働くことの厳しさや意義を肌で体験し、社会人としてのマナー、礼儀を学ぶ中で自分の将来を考えた力。	様々な体験や学習の中で自己を知り、将来の理想や現実的な未来像を真剣に考えようとする力。
3年	体験等を通じ、生涯にわたって、自己の個性を高め、能力を發揮しようとする心。	郷土の良さや他地域の文化との違いを知り、社会に出たときにその知識や経験を生かそうとする心。	集団の中の自分の役割を理解し、ストレスを客観的に把握し、そのコントロールや解消法を身につけ、行動する力。	理想と現実との葛藤や、経験等を通して、将来設計を立案し、実現に向けて、今取り組むべき学習や行動を理解し実行する力。	自分なりの価値観・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に実行する力。	生きがいや仕事へのやりがいを持ち、自己を生かせる進路や生き方を強い意志と責任で切り拓く力。

ポイント

学年	2年	3年
1年	進路情報(資格・学習歴)の把握と活用を図り、望ましい職業観の形成に努める。	将来設計に基づいた進路を自ら決定し、自己実現の達成を図る。

各教科等における重点目標・指導内容

学校行事・各学科行事	ホームルーム活動	進路	課題研究	学校種間連携 地域との連携
○重点目標 学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深める。 公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○重点目標 ホームルーム活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員としてホームルームや学校におけるよりよい生活づくりに参画する。 諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度や健全な生活態度を育てる。	○重点目標 進路活動を通して、生徒の能力や適正を把握し、適切な進路を選択させる。 希望する進路を実現させるための指導、助言を行い、進路先の確保に努める。 社会人になるための態度・心構えを育成する。	○重点目標 課題研究の授業を通して、互いに意見を出し合い、見通しを確かめ合い、他者の意見を受け入れながら課題を探究する。 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に実行する。 社会や自然の中に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかを考える。	○重点目標 望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。 ・集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。 ・人間としての在り方や生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。
◇指導内容 ・校外におけるさまざまな集団活動を通して、教師と生徒及び生徒相互の人間関係を深め、信頼関係の大切さを体験させる。 ・就業体験などでの職業観の形成や進路の選択決定などに資する体験をさせる。 ・勤労の尊さや創造することの喜びを体得させる。	◇指導内容 ・心身の健康と健全な生活態度や規律ある習慣の確立を促す。 ・社会生活における役割と自己責任について理解させる。 ・学ぶことと働くことの意義を理解させる。	◇指導内容 ・志望調査、個人面談・三者面談の実施により、生徒の能力や適正を把握し、適切な進路を選択させる。 ・課外講習や各種模擬試験を実施して、学力の向上に努める。 ・進路志望者には早期に意識づけを行い、個別指導を強化する。	◇指導内容 ・課題研究の授業では目的に応じて情報を収集させ、整理・分析・考察を経て、論理的に表現させる。 ・課題の解決に向けて企業の一員としての当事者意識をもって参画させる。	◇指導内容 ・それぞれの連携の活動を通してコミュニケーション能力の育成と人間関係の確立を目指す。 ・異年齢集団による交流を深めることにより、役割の自覚と自己責任を培う。

キャリア教育実践のための基盤

校内推進体制	校内研修	保護者との連携
校内キャリア教育推進委員会 ・4部（農業・商業・家庭・体育）の各学科の部長と進路指導部と教務部の各部長6名と、部員6名の計12名で構成されている。 ・中心となるのは研修・科運営部に所属している4部の学部長である。	全体研修会及び分掌担当者研修 ・キャリア教育に関する共通理解の深化 ・アンケート項目の検討 ・今年度の成果と課題の検討	キャリア教育についての理解促進 ・授業参観、PTA総会、PTA新聞等を通してキャリア教育の方針と指導内容の理解を深める。
地域・企業・NPO法人との連携 ・NPO法人プラットフォームによる就業体験事前学習の企画 ・就業体験での職場の確保や手配の協力 ・キャリア教育推進事業活動へのアドバイス ・情報交換をし、連携を深める	学校種間連携 ・花壇整備指導（徒ヶ岡小・中学校） ・交流体験学習（徒ヶ岡小学校） ・本校実施「進路懇談会」へ合同参加（徒ヶ岡中学校） ・本校生徒の集団行動出前授業（徒ヶ岡小学校） ・本校生徒の出前進路講話・出前授業（徒ヶ岡中学校）	評価（成果等検証の手立て） ・アンケート調査による生徒の受容の検証 ・自己評価表の作成と活用

②年間指導計画

キャリア教育を教育活動全体を通じて、体系的・系統的に行うためには、計画に基づいて実施する必要があります。

キャリア教育の全体計画は、児童生徒のキャリア発達を促進するために必要とされる諸能力を、意図的・継続的に育成していくために、各学校における教育目標や育成したい能力や態度、教育内容と方法、各教科等との関連等を示すものです。これに対して、各学年における年間指導計画は、各発達の段階における能力や態度の到達目標を具体的に設定するなど、全体計画を具現化するものです。学習指導要領におけるキャリア教育に関する事項を確認し、相互の関連性や系統性に留意し、有機的に関連付け、発達の段階に応じた教育活動を展開する必要があります。また、これらの指導計画は、各学校の教育課程に適切に位置付けられなくてはなりません。

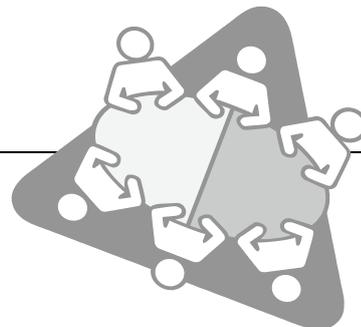
年間指導計画に盛り込む要素としては、学年・実施時期・予定時数・単元名・各単元における主な学習活動・評価などが考えられます。児童生徒の学習経験や発達の段階を考慮するとともに、季節や学校行事などの活動時期を生かし、各教科等との関連を見通して計画する必要があります。

ア 年間指導計画作成の手順

- ①各学校の生徒の学年等に応じた能力や態度の目標を決定する。
- ②キャリア教育の全体計画で設定したそれぞれの能力や態度の目標に基づき、各学校の年間行事予定、学年別の年間指導計画に記載する内容を検討する。
- ③各教科・科目、道徳、総合的な学習の時間、特別活動及び学級や学年の取組等を相互に関連付けた指導計画を作成する。
- ④それぞれの能力や態度の到達目標に応じた評価の視点を設定し、明確化する。

イ 年間指導計画作成の留意点

- 各学校の児童生徒の実態や発達の段階に応じた目標や内容にする。
- 各教科・科目、総合的な学習の時間、特別活動及び学科や学年などの取組等、それぞれのねらいや内容を踏まえて関連付けを図る。
- 入学から卒業までを見通して、児童生徒のキャリア発達を支援できるよう、具体的で系統的なものとする。
- 評価の視点等を考慮し、評価方法を検討する。
- 家庭や地域、学校間の連携を考慮する。



各教科等を横断的にみた年間指導計画例①（小学校）

青森市立東陽小学校

■ポイント

各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等におけるキャリア教育に関する事項を確認し、相互の関連性や系統性を留意の上、有機的に関連付けた年間指導計画を作成しています。

平成25年度 青森市立東陽小学校 第3学年 キャリア教育年間指導計画

キャリア教育で育てる能力や態度

- ①【自己を見つめる力】 自分のよさを肯定的に捉え、集団の中での自分の役割を果たそうとする。
- ②【つながる力】 身近な地域からの情報を得て、いろいろな職業や生き方があることを知ろうとする。
- ③【動く／生かす力】 自分の持ち味を発揮し、友だちのよさを認め、共に行動しようとする。
- ④【創り出す力】 必要な情報を集めて計画し、友だちと協力して課題解決しようとする。

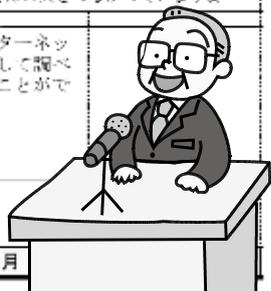
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
特別活動	行事 入学式・始業式① 地域児童会② 1年生を迎える会④	交通安全教室③ 避難訓練③ 児童会総会② 運動会① アリーナー②	校外学習(5年)② (工業高校見学会)	水泳教室(3～6年)③ 避難訓練③ 終業式①	始業式①	避難訓練③ 学校保健委員会定例会② 校外学習(3年)②	校外学習(3年)② 学習発表会②
	学級活動 「1学期の当番・係を決めよう」という自分の願いや思いをもつことができる。②	「運動会のためについて話し合おう」という自分の力や限界までやり通そうとする。①	「校外学習の約束」公共の施設の利用の仕方を知り、マナーを守って利用することができる。②	「おじいさんの話」困っている人には、相手のことを考えて、親切にしようとする心情を育てる。③	「2学期の当番・係を決めよう」という自分の願いや思いをもつことができる。②	「楽しみがな！クラブ活動」どのよう活動知り、て、見通しすることができる。①	「楽しもう！クラブ活動」どのよう活動知り、て、見通しすることができる。①
道徳	「コバを売りに行く親子」よく考えて行動し、節度ある態度を養う。	「二宮とびチャンピオン」自分でやろうと決意し、必要に応じて助けを求め、最後までやり通そうとする。①	「自転車置き場があるのに」公共のまわりを守り、気持ちよく生活しようとする心情を育てる。③	「おじいさんの話」困っている人には、相手のことを考えて、親切にしようとする心情を育てる。③	「手紙を書くお礼」礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接する態度を育てる。①	「お母さん なかないで」生命の尊厳に気付かせ、生命を大切にしようとする心情を育てる。③	「公園の草取り」働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くことができる態度を養う。③
教科	社会「学校のまわり」調べたことをわかりやすくまとめ、伝えることができる。②	国語「読んで感想をもとう」書かれている事柄から、必要なことを読み取ることができる。①	国語「報告する文章を書こう」自分で調べたことをもとに、文章の組み立てに注意しながら報告文を書くことができる。① 社会「市の様子」調べたことをわかりやすくまとめ、伝えることができる。②	国語「読んで考えたことを発表しよう」書かれている事柄から、必要なことを読み取ることができる。①	社会「語ではたらく人」いろいろな職業や生き方があることがわかる。②	国語「話し合ってみよう」自分の意見や気持ちをわかりやすく表現することができる。①	社会「農家の仕事」いろいろな職業や生き方があることがわかる。②
ノート	自分を見つめてみよう！①			「いろいろな役わり」で、たくさんの人とつながっています②			
総合的な学習の時間	「青森探検隊」自分たちの住む地域や青森市について興味関心をもち、自分なりの追求課題をもつことができる。②	「縦の連携1」友達と協力して学習や活動に取り組むことができる。③	「ぼくらの東陽ファーム」地域の方から、野菜作りの仕事を教えてもらい、自分たちで世話をすることができる。②	調べたことを分かりやすくまとめ、発表することができる。④	「世界のこと知って」外国の文化や生活の違いについて関心をもち、見通しをもって学習計画を立てることができる。④	本やインターネットを活用して調べたりすることができる。①	

ポイント

ポイント

ポイント

ポイント



各教科等を横断的にみた年間指導計画例②（小学校）

平川市立碓ヶ関小学校

■ポイント

各教科等のキャリア教育に関する事項を洗い出し、相互の関連性や系統性を留意した上で、相互に関連付けた年間指導計画を作成しています。

平成25年度 平川市立碓ヶ関小学校 第4学年 キャリア教育年間指導計画

		身のまわりの人やものと進んでかかわり、目標に向かって努力しようとする態度を育てる。											
各教科	道徳	異年齢交流 ※総合的な学習の時間	特別活動		連 携		実 践 的 意 義 ・ 能 力 ・ 態 度						
			学級活動	学校行事 児童会活動	学校種 間連携	地域との連携 （保護・地域試 験・NEO等）	自己有用感	目標達成感	ふるさと意識	つなげる力	新たな学びの意欲		
4月	社会「くらしを守る」	・「失敗」は「マイナス」じゃないよ！！	探訪碓ヶ関 ・課題 ・課題追求 ・まとめ ・発表	・学級の計画を立てよう ・係を決めよう	入学式・始業式 1年生を迎える会			「はたらく人」になるために ○はたらく人発見 ・わくわくワーク：家庭編 探訪対談特別企画 ・つがる加勢 ・お世話になってます！ ・こんちカメラマン ・くらしを守る ○ほかに、お世話にできること ・わくわくワーク：家庭編 お手伝い大作戦 ・わくわくワーク：学校編 係・当番、清掃、委員会、 読書回収 ・わくわくワーク：地域編 クリーン作戦 ・学級の係を決めよう ・学級の計画を立てよう ・お楽しみ会を開催 ・ほくたちの手で環境を守りたい					
5月	国語「じょうほうをもとめて読めよう」	1-②勤勉努力	花いっぱい運動		小中合同運動会								
6月	国語「事実を正しく伝える」	・ほくたちの手で環境を守りたい4(5)		グリーン作戦	たけのこマラソン								
7月	を正しく伝える	境を守りたい4(5) 郷土愛				きらめきタイム							
8月	体育「育ちゆく体とわたし」	・ほたるの星4(4)愛校心		水はどこから ・課題 ・追求 ・まとめ ・発表		お手伝い大作戦							
9月	国語「相手や目的におうじて話し合う」					きらめきタイム							
10月	社会「きょうしちを大切にしよう」	・お世話になってます！		矢立小学校との交流		お手伝い大作戦							
11月	私たちの果	4-②勤勉努力		係りを決め直そう。									
12月		・大きくなったら4-②勤勉努力		・学期友お別れ会しよう。	卒業式								

（一部を拡大）



各教科等を横断的にみた年間指導計画例（中学校）

平川市立碓ヶ関中学校

■ポイント

各教科、領域のキャリア教育に関連する内容を洗い出し、相互の関連を明確にし、キャリア教育で培いたい資質、能力、態度及びそれらを支える心との関連を示しています。

平成24年度 平川市立碓ヶ関中学校 第3学年 キャリア教育年間指導計画

学年/月	教科	単元	社会的な学習の時間	特別活動 学校活動	特別活動 学校行事 生徒会活動	その他 学校種別連携	その他 地域との連携 (保護者、地域住民、企業、NPO等)	支える心及び培いたい資質・能力・態度					
								自己有用感	ふるさと意識	自己を見つめる力	つながる力	動く／生かす力	創り出す力
4月	英語 [Lesson] Borrow for Our School Trip ・生活(音楽) 「旅行の計画と準備」 英語 [活動] 「一週間計画」	・人間愛、感謝、思いやり 1-(2) ・情熱、友情 1-(3)		家庭旅行準備・事後活動	一学期始業式 新人会(対入会) 3年級			○	○	○	○	○	○
5月	英語 [Lesson] Senior High School Club Life 英語 「先輩高生が活躍している授業を聞く」 英語 「先輩高生が活躍している授業を聞く」 社会(公民) 「私たちの消費生活」	・自己・自己1-(3) ・人間の尊重 3-(3) ・責任心 4-(7)		全校キャリア学習「第1学年履修」	「高野実業生徒会の「住居体験」」「碓ヶ関高専卒業生の「就職発表」	・中体連 ・中体連 ・カリーオン		○	○	○	○	○	○
6月	体育 「スケルトン」	・集団生活の向上 4-(1) ・情熱、友情 1-(3)		学習計画について発表する	全校運動会 全校運動会 開学			○	○	○	○	○	○
7月		・向上心 1-(5) ・人間の弱さの克服 3-(3)			一学期全学年に向けて 二学期に向けて 「課題テスト」			○	○	○	○	○	○
8月		・向上心 1-(5) ・人間の弱さの克服 3-(3)			行武 委員会 引いた			○	○	○	○	○	○
9月	・社会(公民) 「人間の尊重と日本国憲法」 ・国語 「【話す】場を踏まえて効果的に話すー自分の思いを語る(スピーチ)」 ・音楽 「全校合唱」	・奉仕、公共の福祉 4-(5) ・自他の尊重 2-(5) ・文化の継承と創造 4-(9) ・役割と責任 4-(1)		関中祭へ向けた取り組み(表現活動として)				○	○	○	○	○	○
10月								○	○	○	○	○	○
11月		・自己 1-(3)			三学期に向けて課題テスト・アスの振り返り	三学期始業式		○	○	○	○	○	○
12月	英語 [Lesson] 「お金の使い方」				「テストに向けた振り返り」 「発表会」			○	○	○	○	○	○
1月	音楽 「祝歌」	・感謝・思いやり 1-(2)			卒業式準備	卒業生を送る会 卒業式		○	○	○	○	○	○

ポイント

ポイント

〔一部を拡大〕

〔一部を拡大〕

支える心及び培いたい資質・能力・態度				
自己有用感	ふるさと意識	自己を見つめる力	つながる力	動く／生かす力
○	○	○	○	○

各教科等を関連づけた年間指導計画例（高校）

青森県立名久井農業高等学校

■ポイント

科目によっては、目標や内容がキャリア教育そのものと重なる部分が多いので、各教科、科目におけるキャリア教育との関連を明記しています。

平成24年度 名久井農業高等学校キャリア教育年間指導計画

<本校で身に付けさせたい力>

- (人)強く 正しく 明るく そして責任をもつ
- (自)自分の長所を自主的に伸ばそうとする。
- (課)自ら課題を見つけ、それを解決しようとする。
- (キ)社会の向上・発展に寄与しようとする。

- 1 人間関係形成能力(①自他の理解能力 ②コミュニケーション能力)
- 2 情報活用(①情報収集・探索能力 ②職業理解能力)
- 3 将来設計能力(①役割把握 ②計画実行能力)
- 4 意志決定能力(①選択能力 ②課題解決能力)

<学年で身に付けさせたい力>

- (人)基本的な生活態度を身に付け、ルールを遵守する。
- (自)特別活動や部活動に積極的に取り組む。
- (課)将来の目標達成に向けて勉学に励む。
- (キ)農業教育を通じて自分の生き方や考え方を確立させる。

時期	教科	教科外	時間外	連携プログラム
4月				
5月	○グリーンライフ(1-①②、3-①②、4-①②) 5月中「剣吉小学校体験学習:リンゴ人工授粉」3年園芸科学科 ・体験学習を提供する活動に必要な知識と技術を習得し、地域資源の有用性を理解する。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> ポイント </div>	○総合実習(1-①②、3-①②) 5/25「地区分会活動」全校生徒 ・出身地域の環境美化活動を通して、周囲と協力する大切さや奉仕の精神を培い、故郷に愛着を持つとともに、企画力や管理能力などを身に付ける。	○名川中での学校紹介5月～6月上旬 2・3年生総合実習
6月	○農業科学基礎(1-①②、3-①②、4-②) 6月中「出身中学校への寄せ植えプレゼント」1年園芸科学科 ・草花の特性や生育に適した環境を理解し、寄せ植えの技術を身に付ける。 ○グリーンライフ(1-①②、3-①②、4-①②) 6月中「剣吉小学校体験学習:リンゴ摘果」3年園芸科学科 ・体験学習を提供する活動に必要な知識と技術を習得し、地域資源の有用性を理解する。 ○草花(1-①②、3-①②、4-②) 6月中「チェリー保育園花壇花植え」2年園芸科学科 ・草花の栽培知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深める。	○進路ガイダンス(1-①②、2-①②、3-①②、4-①②) 6/6 3年生 ・外部講師を招くことで、自分の進路に関する知識や理解を深める。	○総合実習(1-①②、2-①、3-①②、4-②) 6月中「山田町被災地ボランティア」希望者 ・被災地での花壇整備対象植物に関する知識・技術や企画力・管理能力を身に付ける。 ○総合実習(1-①②、2-①、3-①②) 6月中「剣吉小学校花植え」3年園芸科学科 ・草花の栽培知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深める。 ○総合実習(1-①②、2-①、3-①②) 6月中「剣吉商店街花植え」1・2年園芸科学科 ・草花の栽培知識と技術を習得し、経営と管理についての理解を深める。	
7月		○進路講演会(1-①②、2-①②、3-①②、4-①②) 7/11 3年生 ・職業安定所職員を招くことで、履歴書の具体的な記入方法や面接のポイントについての知識や理解を深める。		
8月	○課題研究(1-①②、3-①②、4-②) 8/3「アグリサイエンス」2・3年 ・中学生の希望者が来校し、本校の農業生産物を活用した実験実習の補助をすることで、専門的な知識や技術を深め、問題解決能力を身に付ける。		○総合実習(1-①②、2-①、3-①②、4-②) 8月中「山田町被災地ボランティア」希望者 ・被災地での花壇整備対象植物に関する知識・技術や企画力・管理能力を身に付ける。	
9月	○グリーンライフ(1-①②、3-①②、4-①②) 6月中「剣吉小学校体験学習:リンゴ文字シール貼り」3年園芸科学科 ・体験学習を提供する活動に必要な知識と技術を習得し、地域資源			○秋祭り10月中 町内出身者総合実習



③教科・領域

ア 各教科・科目の年間指導計画

各教科・科目ごとに学年別年間指導計画を作成する場合は、実施時期・予定時間・単元名・各単元における主な学習活動を明確にするとともに、それぞれの学習指導要領に書かれているキャリア教育に関連付けられる発達能力を記載することで、教科におけるキャリア教育との関わりが明確になり、体系的・系統的な指導が可能となります。

イ 道徳の年間指導計画

道徳とキャリア教育との関連においては、「個性を伸ばして充実した生き方を追求する」「自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団の生活の向上に努める」「勤労の尊さや意義の理解」「公共の福祉と社会の発展に努める」などの内容について指導を工夫するとともに、その学年の学校行事や学級活動などとの関連を考慮し、実施時期・予定時数・主題名を記載することで、キャリア教育との関わりを明確にすることが望まれます。

ウ 総合的な学習の時間の年間指導計画

総合的な学習の時間とキャリア教育との関連においては、「自己の生き方を考えることができるようにすること」を重点に、児童が身近な働く人や仕事に触れ合うことでいろいろな職業や生き方があることを学んだり、生徒が自己の生き方を具体的、実際的なものとして考えたりすることができるよう、職業や進路に関する調査や話し合い、地域での職場体験活動などを通して、キャリア教育との関わりを明確にすることが望まれます。

エ 特別活動の年間指導計画

特別活動とキャリア教育との関連においては、社会の一員としての自覚と責任に関連する事項や、学ぶことと働くことの意義の理解、主体的な進路の選択と将来設計など学業と進路に関連する事項などを考慮しつつ、学級活動、生徒会活動、学校行事におけるねらいとキャリア教育の視点を有機的に関連付けて計画を立てることが望まれます。

《洗い出し》

「洗い出し」の作業によって、列挙された単元等のうち、学校ごとに設定したキャリア教育の目標や他の教科等との関連性を勘案しながら、社会的・職業的自立に向け、その基盤となる能力や態度のどこに焦点を当てようとしているかを検討し、具体的な単元等を特定していくことが、体系的・系統的な指導にとって不可欠です。

教科・領域等のキャリア教育学習計画例（小学校）

六ヶ所村立千歳平小学校

■ポイント

年間指導計画と、教科、領域等のキャリア教育学習計画を整備することによって、教科におけるキャリア教育との関わりを明確にし、体系的・系統的な指導をしています。

(5) 学年キャリア教育に係る活動実施一覧表

月	学校行事	キャリア教育推進活動	キャリア発達に向けた諸活動			地域と連携した活動・体験活動等	異年齢交流	平成中・六ヶ所高校と連携した活動	備考	
			特別活動等	教科	道徳					総合・生活等
4月	新任式・始業式 入学式 身体測定 各種検診(眼科、内科、歯科、心電図、耳鼻科) 児童会総会 交通安全教室		○学級役員、係を決めよう			総合: おいしいお米のできるまで 計画 ○住んでいぬへの思い ○職業のめあてを定めよう ○学級目標を決めよう 社、世界の中の国士 ○職業のめあてを定めよう ○交通安全 総合: パケッ筒を買ってよう	(縦割り班連携)			
			○1学期のめあてを定めよう							
			○1学期のめあてを定めよう							
			○学級目標を決めよう							
5月			○交通安全							
			健康チャレンジカード	世界は夢の国だ						

第2学年 キャリア教育学習計画(生活科)

低学年目標

- 友だちとの関わり方を学び、自分の良さや友だちの良さを見付けることができるようにする。
- 自分のことは自分の力で最後までやり遂げる態度を育てる。
- めあてを持ち、楽しい生活を送ろうとする態度を育てる。
- 身のまわりの仕事や働く人に興味をもつことができるようにする。

教科	単元名	ねらい	・学習活動 ※手だて	☆評価
生活科	1年生と学校探検	・1年生に学校を案内することを通して、2年生になったことを自覚し、下級生を思いやる態度を育てる。	・学校探検の計画を立てる。 ・グループごとに1年生と一緒に探検する。 ※異年齢交流	☆グループの友だちと話し合い、探検の計画を立てて取り組むこと。
	町たんけん	・地域探検を通して、地域の良さに気付かせる。 ・働く人にインタビューし、働くことに興味を持たせる。	・グループの友だちと探検の約束事を決める。 ・地域探検に行き、いろいろなビューする。 ※地域の人材活用 ※職場訪問と体験 ・探検したことをまとめ、発表	
	あそびランド	・1年生と遊びを通して交流させ、相手を意識したよりよい関わり方や上級生らしい態度を育てる。 ・友だちと協力しながら、自分の役割をしっかりと果たす態度を育てる。	・あそびランドの計画を立てる。 ・あそびランドの準備。 ・交流会をする。 ※異年齢交流	
	わたしの小さかった頃	・自分の成長記録を作ることで、成長の喜びや周りの人への感謝の気持ちをもつ。 ・家の人や保育所の先生にインする。 ・自分の成長記録を作る。 ・家の人に発表する。 ※地域の人材活用		

- ☆評価 ①自分の考えを伝え合い協力する力
②最後までやり抜く力
③主体的に動く力
④働く意味を考え将来への希望をもつ力



第5学年 キャリア教育学習計画(総合的な学習の時間)

高学年目標

- 自分や友達のよさを認め合い、協力してよりよい生活を築こうとする態度を育てる。
- 自分の考え・行動に責任を持ち、最後まで努力する態度を育てる。
- 自ら課題を見つけ、めあてに向かって計画を立てたり努力したりする力と態度を育てる。
- 働くことの大切さ・喜びを理解し、将来に希望をもちながら進んで学び、仕事をする態度を育てる。

教科	単元名	ねらい	・学習活動 ※手だて	☆評価
総合的な学習の時間	めざせ米博士	・米作りなどの体験活動や調べ学習を通して、米ができるまでには、たくさんの人の苦勞や努力があることに気付かせる。 ・米作り体験を通して、働くことの大切さや喜びに気付く、これからの自分の生活や将来に生かそうとする態度を育てる。	・活動計画を立てる。 ・米の作り方について調べる。 ・米作り体験をする。 ・米料理をつくる。 ・米作りについてのまとめをする。 ・学習したことの発表をする。 ※体験活動	☆活動を通して、積極的に調べたりまとめたりすることができたか。〔①②③〕 ☆自分の稲を責任を持って育てることができたか。〔②③〕 ☆米作りや稲刈りの苦勞や人々の努力に気付くことができたか。〔④〕
	運動会大作戦	・友達と協力しながら、自分の役割を最後まで責任を持ってやり遂げる態度を育てる。 ・異学年との交流を通して、6年生を手助けし、下学年を思いやる態度を育てる。	・役割を知り、6年生との打ち合わせをする。 ・合同で練習をする。 ・今年度のふり取りと来年度に向けての反省をする。 ※異年齢交流	☆友達と協力しながら、自分の役割を最後まで責任を持ってやり遂げることができたか。〔①②③〕 ☆6年生を手助けしたり、下学年に優しく教えたりすることができたか。〔③④〕
	宿泊学習	・集団生活を通して、自立心を育て、普段の生活でも自分の力で判断し、行動していくこうとする態度を育てる。 ・集団生活を通して、友達と協力することの大切さに気付かせる。	・オリエンテーション ・活動を含めた計画を立てる。 ・宿泊学習のまとめ、ふり取りをする。 ※体験活動	☆自分の身の回りのことは自分で行うことができたか。〔②③〕 ☆友達と仲良く協力して活動することができたか。〔①〕 ☆これまでの生活をふり取り、今後の生活に対して新たな目標を持つことができたか。〔④〕
	6年生を送る会	・6年生に感謝の気持ちを表すために、友達と協力しながら積極的に活動する態度を育てる。 ・6年生の卒業を祝うことを通して、自分が最高学年となる責任と希望をもたせる。	・送る会の計画を立てる。 ・準備をする。 ・送る会を実行する。 ・ふり取りを行う。 ※異年齢交流	☆送る会のねらいを理解し、計画を立てることができたか。〔①〕 ☆友達と協力して準備を進めることができたか。〔①②③〕 ☆次年度への希望をもつことができたか。〔④〕

- ☆評価 ①自分の考えを伝え合い協力する力
②最後までやり抜く力
③主体的に動く力
④働く意味を考え将来への希望をもつ力

縦割り班活動をキャリア教育推進の中核に位置付けた計画例

板柳町立板柳東小学校

■ポイント

- ・縦割り班活動を通して「培いたい資質・能力・態度」の向上を図ることとし、この活動を年間指導計画の中核に位置付け、授業や各種教育活動を関連付けて、体系化しています。
- ・活動の反省を記入する欄を設け、改善に役立てられるようにしています。



年間を通して継続して行う活動（縦割り班活動）を柱に設定し、それに各種教育活動を関連付けて整理することで、一貫した見通しのある実践が展開できます。

ポイント

第5学年 キャリア教育 年間指導計画

人間関係形成・社会形成能力		自己理解・自己管理能力		課題対応能力		キャリアプランニング能力											
1	2	3	4	5	6	7	8										
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月						
総合	お米について調べよう 5月	総合	チャレンジタイム チャレンジマラソンの取り組み	音楽	和音の美しさを味わおう 10月	国語	話を作り上げよう 1月	道徳	うばわれた自由 11月	道徳	なわとび大会の取り組み 2月						
道徳	父がぼくに教えたかったこと 4月	理科	種子の発芽と成長 5月	体育	陸上運動 5月	道徳	ほいもよらぬで森の絵 10月	道徳	うばわれた自由 11月	道徳	なわとび大会の取り組み 2月						
学級活動	めあてをもとう 4月	学級活動	ハッピーレストランの計画を立てよう 6月	学級活動	ハッピーレストランの計画を立てよう 6月	学級活動	学習発表会を成功させよう 10月	学級活動	ハッピーレストランの計画を立てよう 11月	学級活動	お楽しみ会の計画を立てよう 1月						
関連する行事・活動	縦割り班組織会	菜園活動	運動会	ハッピーレストラン①	全校遠足	学習発表会	ハッピーレストラン②	秋レク			なわとび大会						
基礎的・汎用的能力	4	1	2	1	1	3	3	3			2						
縦わり班活動																	
学級活動	楽しい宿泊体験学習 5月	道徳	言葉のおくりもの 5月	国語	注文の多い料理店 7月	社会	垂柳遺跡見学 9月	国語	事例に注目しながら文書の美観をとらえよう 10月	家庭科	おいしいね 毎日の食事 10月	道徳	まいごのカナリア 12月	国語	分かったよ 1月	家庭科	家族の思い出をよめよう 2月
1学期				2学期				3学期									
反省	異学年が同じ場所で楽しく会食をするために、だれかに頼るのではなく、自分の力で他者に働きかける体験ができた。緊張もあったが、やり遂げた充実感からか、楽しかったという感想が多かった。今しなければいけないことは何かを考えることを通して、お互いを思いやる心の育成に役立った。準備に時間が相当かかった。どこで時間短縮ができるか検討が必要である。				2回目ということもあり、実際の動きが児童には見えていた。話し合いの時間も1学期に比べ短時間になり、もっと工夫ができないか意欲的に意見を出し合っていた。楽しく活動しようとする新しい試み(座席の工夫)をした結果、準備に時間がかかりすぎてしまった班が多く見られた。その解決策をみんなで話し合い、方向性を確認することができた。3学期の最後の活動へとつなげていきたい。この活動を通して、児童は自分の立場を知り、集団の中での自分の生かし方を少なからず児童は感じ取ってきているのではないかと感じる。				インフルエンザの影響で3回目のハッピーレストラン。計画の段階は、これよりうまくいったこととうまくいし、うまくいかなかった理由を話し合い、意見を出し、よりよい活動へとつなげていきたい。5年生一人一人が十分に楽しむ。								

ポイント

反省欄を設けるなど、計画を活用し、指導改善に生かせるよう工夫することも大切です。



中核とする活動を全学年統一することで、学校全体としてのキャリア教育推進が意識できるのですね。

縦割り班での菜園活動



各教科の年間指導計画例（中学校）

板柳町立板柳中学校

■ポイント

各教科の年間指導計画に、キャリア教育との関わりを記載することによって、体系的・系統的な指導ができるようにしています。

平成25年度 第2学年 英語科年間指導計画											板柳町立板柳中学校					
A=Action! WT=Word Tree CP=Chapter Project TT=Talking Time R=Reading BP=Book Project											キャリア教育との関連					
担当	章	課名と内容	言語材料	言語活動	評価規準	人間関係形成	自己理解	課題対応	キャリアプランニング	備考/指導の反省						
4		Pre-Lesson Spring Vacation 春休みの体験 ナナが、春休みに家族と愛媛に行った体験をスピーチし、生徒たちがそれについて質問する		◇あいさつ、学校での学習や活動 ◆発表する、説明する、礼を言う、質問する	●スピーチを中心とした4技能に関わる英語の言語活動を通して、1年で学習した基礎事項を復習する ●春休みまたは最近の自分の体験を3～4文程度の文章にまとめることができる ●それらをクラスの前で発表することができる	○		◎								
7		1 Japanese Sports 日本のスポーツ ホール先生が、週末に参加した相撲部屋の朝稽古見学ツアーについて語る	過去形 (be動詞以外)+C(形容詞)	◆発表する、質問する、描写する、説明する	●過去形 (be動詞) やS+V (?be)+Cの文を用いて、適切に表現したり、応答することができる ●過去形 (be動詞) やS+V (?be)+Cの文構造を理解する ●相撲や柔道などを取り上げて、日本文化と世界の異なる文化との関わりについて考える		○	○		◆道4ー(9) 伝統の継承と文化の創造						
1	1	WT 家族、親類 家族や親類を表すこと	平成25年度 1学年 数学科 年間計画													
1		WT 辞書を使って 辞書の使い方を学ぶ														
7		2 Gestures いろいろなジェスチャー 国によるジェスチャーに関するテレビ番組のナナとジャックが、交えて、ジェスチャーについて話し合う	月	節	項	学習内容	評価規準			指導時間	キャリア教育との関連			備考・指導の反省		
2		A どこに何がある 物の存在を示す表 学ぶ	4月	1	節とびら A(1)ア	☆身のまわりで使われるいろいろな数の中から、「ー」のついた数を見だし、その意味について関心を高める。	◎身のまわりの数から、0より小さい数があることに関心を持ち、負の数を数直線上に表したり、数直線上に表された正負の数を読みとったりしようとしている。	◎身のまわりの数から、0より小さい数があることに関心を持っている。	◎数の範囲を拡張することができ、0より小さい数を反対方向にのばせば表せることができる。	◎数直線上に表された正の数・負の数を読みとったり、正の数・負の数を数直線上に的確に表したりすることができる。	◎マイナス、プラス、正の数、負の数、自然数などの意味を十分に理解している。	○		◎		
4		CIP 日記を書こう 1日の出来事を日記 まとめる			1 0より小さい数 A(1)ア	◎負の数の意味と表し方 ◎正の数・負の数と数直線	◎身のまわりの数から、0より小さい数があることに関心を持っている。	◎0より小さい数の範囲を拡張することができる。	◎数直線上に表された正の数・負の数を読みとったり、正の数・負の数を数直線上に表したりすることができる。	◎マイナス、プラス、正の数、負の数、自然数などの意味を理解している。	○	○				
					2 正の数・負の数で量を表すこと A(1)ア, エ	◎次のような量を、正の数・負の数を使って表すこと ・反対の性質をもつと考えられる量 ・基準とした量からの増減や過不足 ◎反対の性質を表す2つのことばを、正の数・負の数を使って、その一方のことばで表すこと	◎互いに反対の性質をもつ量や基準を決めたときの量を、正の数・負の数を使って表すことに関心を持ち、進んで活用しようとしている。	◎互いに反対の性質をもつ量や基準を決めたときの量を、正の数・負の数を使って表すこと	◎反対の性質をもつ量を正の数・負の数を使って考えることができ、自ら基準を決めて、正の数・負の数を使って表すことができる。	◎正の数・負の数を使って、反対の性質をもつ量や基準を決めたときの量を的確に表すことができる。 ◎正の数・負の数を使って、反対の性質をもつ量や基準を決めたときの量を表すことができる。	◎反対の性質をもつ量や基準を決めたときの量を表す数として、正の数・負の数が使われていることやそのよさを理解している。 ◎反対の性質をもつ量や基準を決めたときの量を表す数として、正の数・負の数が使われていることを理解している。		○	○		



教科とキャリア教育との関わりを明記した年間指導計画例(中学校)

六ヶ所村立千歳中学校

■ポイント

各教科の年間指導計画に、キャリア教育との関わりを記載することによって、体系的・系統的な指導ができるようにしています。

第3学年社会科年間指導計画(歴史・公民)

月	時間	章・単元・題材名		主な指導のねらい	観点別評価	キャリア教育との関連	キャリア観点の説明	
		単元	題材					
4	8	6章 二度の世界大戦と日本	1 節 第一次世界大戦と日本	1 第1次世界大戦とロンドン会議 2 高麗の植民地化 3 民族運動 4 シンチン運動 5 アジアの近代化 6 大正時代の社会	・ 第1次世界大戦の背景 ・ 第1次世界大戦の経過 ・ 第1次世界大戦の終結	○	○	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> ポイント </div>
			2 節 第二次世界大戦と日本	1 世界恐慌とブロック経済 2 欧米列強の対立 3 日本と中国の衝突 4 日中戦争	・ 世界恐慌の発生 ・ 世界恐慌の拡大 ・ 世界恐慌の終結	○	○	
5	3	3 節 第二次世界大戦と日本	1 第2次世界大戦の経過	1 第2次世界大戦の経過 2 シンチン運動 3 大正時代の社会	・ 第2次世界大戦の経過 ・ 第2次世界大戦の終結	○	○	課題対応 悲惨な戦争から、平和を求めた人々の取組を学ぶことができる。
			2 節 日本と国際社会	1 日本と国際社会 2 日本と国際社会 3 日本と国際社会	・ 日本と国際社会の関わり ・ 日本と国際社会の関わり	○	○	キャリアプラン 平和を希求した人物の取組について学ぶことができる。
			3 節 日本と国際社会	1 日本と国際社会 2 日本と国際社会 3 日本と国際社会	・ 日本と国際社会の関わり ・ 日本と国際社会の関わり	○	○	課題対応 戦後の日本の取組と国際社会の関わりについて学ぶことができる。
6	3	1章 わたしたちの生活と現代社会	1 節 現代生活と社会	1 グローバル化 2 情報化 3 高齢化	・ グローバル化の進展 ・ 情報化の進展 ・ 高齢化の進展	○	○	課題対応 現代社会の課題と取組について学ぶことができる。
			2 節 生活と文化	1 生活と文化 2 生活と文化 3 生活と文化 4 生活と文化	・ 生活と文化の関わり ・ 生活と文化の関わり	○	○	
7	4	3 節 現代生活と社会	1 現代生活と社会	1 現代生活と社会 2 現代生活と社会 3 現代生活と社会 4 現代生活と社会	・ 現代生活と社会の関わり ・ 現代生活と社会の関わり	○	○	(人) 社会集団のトラブル例について、グループで話し合い解決に導くことができる。
			2 節 現代生活と社会	1 現代生活と社会 2 現代生活と社会 3 現代生活と社会 4 現代生活と社会	・ 現代生活と社会の関わり ・ 現代生活と社会の関わり	○	○	

(3) 研修の充実<校内での研修>

① 培いたい資質、能力、態度の設定のために

キャリア教育に関わる授業を充実させ、その目標達成の鍵を握るのは、指導する教員のカリキュラム編成・運用能力、そして、授業での指導力です。さらに、地域や学校、児童生徒の実態に応じて、特色ある学習活動を生み出していく構想力も必要です。また、キャリア教育は、教員がチームを組んで互いに持ち味を発揮して指導に当たることによって、児童生徒の多様な学習状況に対応できるのであり、各学校では、学校全体で教員の指導力の向上を図る必要があります。したがって、教員研修の中でもとりわけ校内研修を充実させることは、極めて重要です。

② 校内での研修の実際

(教員研修の例)

回	研修のテーマ	目的	内容例及び留意点
1	キャリア教育の意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自校におけるキャリア教育の意義を理解する。 ・ 社会の仕組みや経済社会の構造について理解を深める。 ・ キャリア教育の推進に不可欠な教員全体の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導者養成研修を受講した講師を招き、キャリア教育がもとめられる背景（社会の仕組みや経済社会の構造などを含む）やその基本的な理念について学ぶ。 ・ グループに分かれて、キャリア教育についてのそれぞれがもつイメージを話し合う活動等も有効である。
2	キャリア教育の目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自校の児童生徒のキャリア発達上の課題や育成したい資質・能力・態度を明らかにし、キャリア教育の目標を設定して、目指す児童生徒像を明らかにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校独自のキャリア教育の目標を検討し、目指す児童生徒像を明確にする。 ・ 育成したい資質・能力・態度と各教科等との関連を考え、年間指導計画を作成する。
3	キャリア教育の視点に立った授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育の視点に立った指導計画を作成する能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間指導計画を受け、育成したい資質・能力・態度とのかかわりを明確にしなが、各教科等の単元指導計画や1時間の指導計画を作成する。
4	家庭や地域との効果的な連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭や地域との連携の重要性を理解する。 ・ 家庭や地域のキャリア教育に対する理解を促進する。 ・ 各学校の特性を生かした効果的な連携の進め方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師（企業人やキャリア教育関係者）を招き、教員、保護者、地域の人々を対象に講演会を実施する。 ・ 保護者や地域の人々に協力を依頼できる活動内容や協力を仰ぐ方法と同時に、キャリア教育の趣旨を的確に伝える方法について話し合う。 ・ 日頃からの保護者との関係づくりが重要であるという認識に立ち、保護者会の効果的な進め方などについても考える。
5	キャリア・カウンセリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なカウンセリング能力が全教員に必要であることを理解し、その実際を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員と児童生徒のコミュニケーション能力を高める。 ・ ビデオ視聴やその逐語録を見ることで、児童生徒の話聴く際の望ましい態度や応答・在り方について理解を深める。

※参考：文部科学省『小学校キャリア教育の手引き』

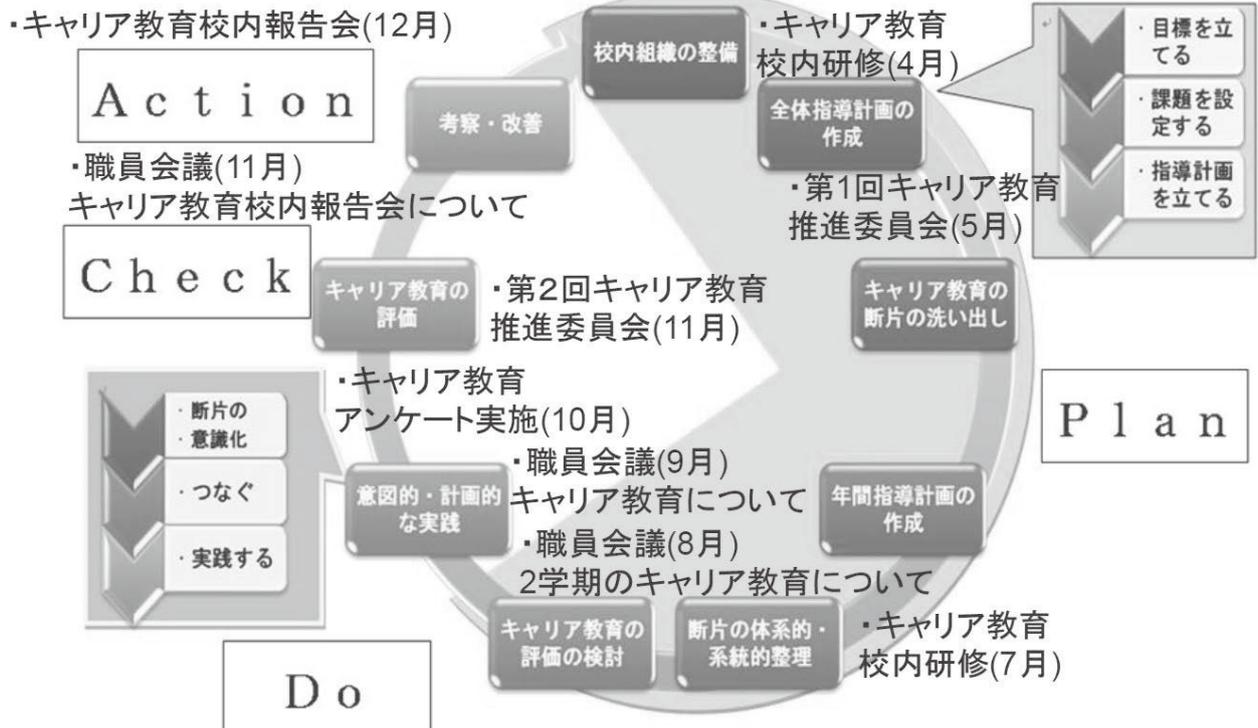
P D C Aサイクルによる推進を図る校内研修例

青森市立東陽小学校

■ポイント

- ・1年間の教育活動を見通した評価と改善のサイクルを設定しています。
- ・自校の実態から、目指す子ども像を明らかにしています。

ポイント



○全体指導計画の作成から1年間の校内の研修の流れ

1 全体計画を作成する

2 今年度の重点を決定する

課題(1) 日常での自主性を伸ばす。

◎係活動やお手伝いなど、その場で自分にできることを見付けて進んで実践しようとしたり、目標をもって努力したりする子

課題(2) 相手を思いやる気持ちをもった言動をさせる。

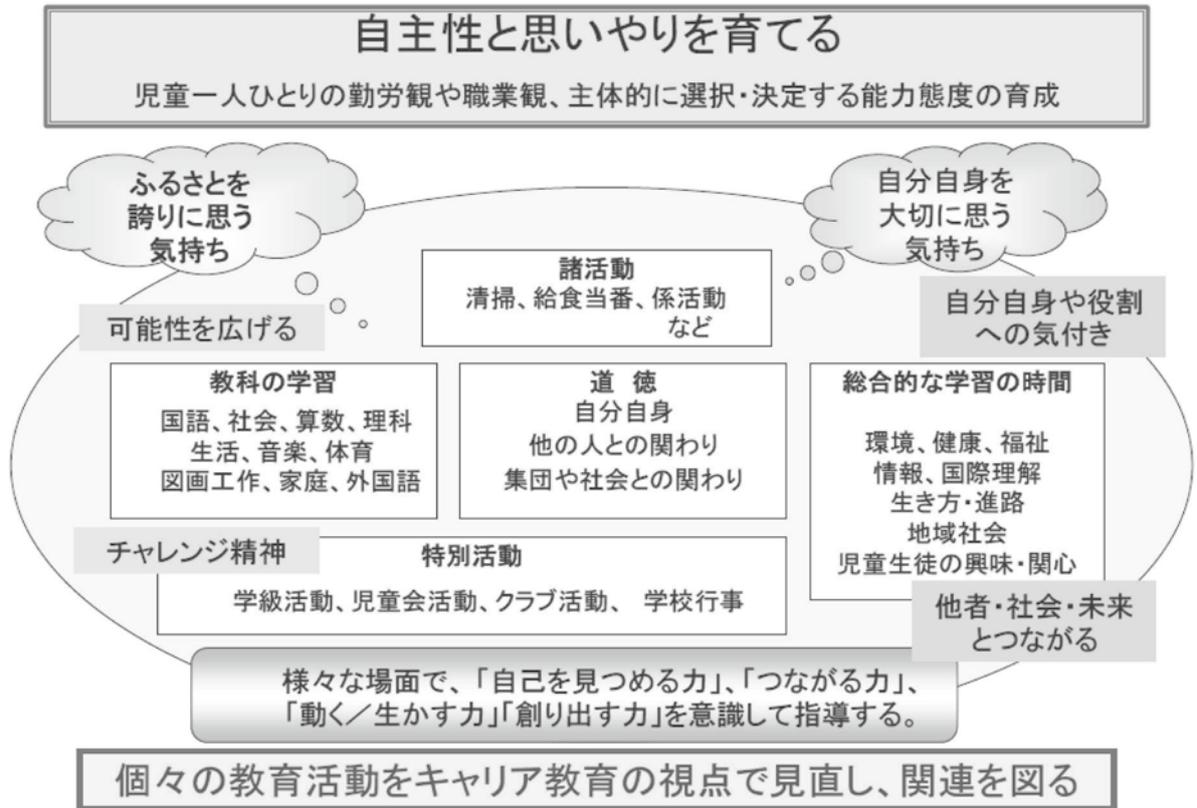
◎自分及び他者の大切さに気付き、家庭や友達・周囲の人々に関わりながら積極的に働きかけようとする子

3 児童のキャリア発達に関わる課題をふまえる

低学年：学校生活への適応 高学年：社会との関わり

ポイント

4 育成したい能力や態度について共通理解する



5 年間指導計画の作成

- ・キャリア教育の断片をつなぎ、各学年の年間指導計画を作成
- ・縦、横の連携と育てたい能力・態度との関連を明記
- ・キャリアノートの使用時期を明記
- ・評価

6 意図的、計画的な実践

- ・学習指導案にキャリア教育に関わるねらいを記載
- ・キャリア教育の視点での指導場面を明記
- ・キャリア教育に関する評価を設定

7 キャリアアンケートの実施

- ・育てたい資質・能力・態度に関わる児童アンケートの実施
- ・教職員に対するアンケート及び学校評価(外部)の実施
- ・集計結果を分析し、教育課程編成のための資料作成

8 校内キャリア教育報告会

- ・学年間の共通理解

9 教育課程（キャリア教育の視点を含む）についての内部評価及び外部評価の分析

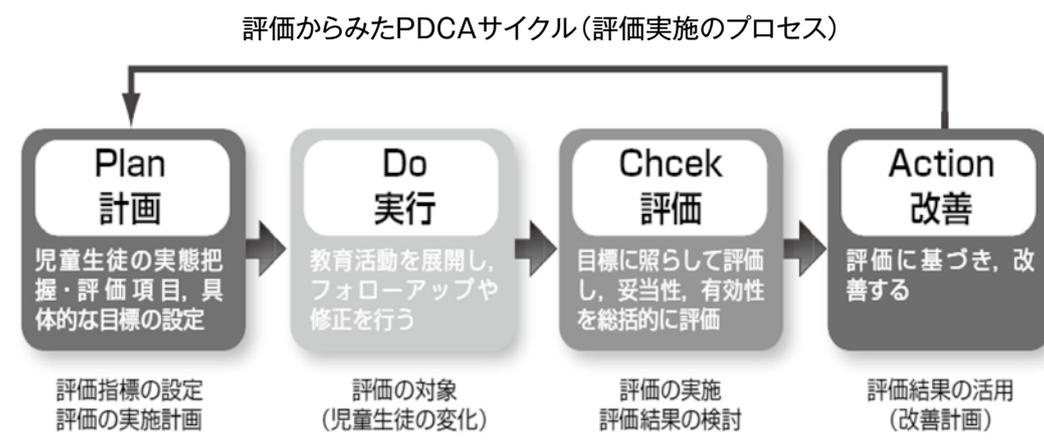
- ・次年度へ向けた計画の策定



(4) 評価 <アンケートの活用>

①評価の基本的な考え方

キャリア教育の評価には、児童生徒の成長や変容に関する評価と教育活動としてのキャリア教育全体の評価の視点が必要となります。各学校には、自校の目標及び培いたい資質、能力、態度、教育内容・方法等との関係から、児童生徒にどのような力が身に付いたか、その育成のための教育活動は効果的であったか、指導計画は適切であったかなど、多面的に評価することが求められます。



※参考：文部科学省『高等学校キャリア教育の手引き』

②定量的な評価と定性的な評価（培いたい資質、能力、態度の設定及びその評価のためのアンケート）

定量的な評価の方策としては、既存の職業興味検査や適性検査などを活用する検査法や、アンケートなどによる調査法がありますが、キャリア教育の目標はそれぞれの学校が地域や学校の実態等を踏まえつつ児童生徒の発達の段階に即して定めるものであることから、学校ごとに作成し実施するアンケートなどを通して児童生徒の成長や変容を捉えることが不可欠です。

もちろん児童生徒の成長や変容をより正しく把握するためには、定量的な評価のみに頼らず、面接法や観察法、ポートフォリオなどの学習成果物を用いた生徒理解などの定性的な評価を併用することも大切です。

③キャリア教育全体の評価

キャリア教育の実践をより効果的な活動とするためには、各学校における到達目標とそれを具体化した教育プログラムの評価の項目を定め、その項目に基づいた評価を適切に行い、具体的な教育活動の改善につなげていくことが重要です。

その際、到達目標は、一律に示すのではなく、児童生徒の発達の段階やそれぞれの学校が育成しようとする資質、能力、態度との関係を踏まえて設定することが必要です。

また、評価の実施に当たっては、学校評価(内部・外部)等も生かし、その評価の結果を次年度の計画に反映させていくことが大切です。

アンケートを活用して多面的な評価を行った例

青森市立東陽小学校

■ポイント

- ・児童、教職員、保護者のアンケート項目をリンクさせることで、児童を多面的に評価しています。
- ・教職員対象のアンケートには、成果や課題、そして次年度のキャリア教育の方向性を策定するための項目があります。
- ・保護者アンケートにも、キャリア教育に対する項目があります。

児童対象のアンケート

No.	項目
①	自分から意見を発表して、学習を進めている。
②	グループ活動では、友達と話し合ったりして、学習を進めている。
③	友だちの気持ちや考えを大切に、協力したり助け合ったりしている。
④	友だちの考えのよさを生かして、自分の考えを深めたり見直したりしている。
⑤	あまりやる気が起きないことや、苦手なことにも進んで取り組んでいる。
⑥	「学習問題（課題）」を解決するために、自分から進んで資料や情報を集めて学習を進めている。
⑦	自分の目標をもち、それを実現しようと計画的に努力している。
⑧	友だちのさまざまな考えの中から、よいと思うものを自分で決めている。
⑨	自分の役割の大切さを考え、積極的に学習に取り組んでいる。
⑩	⑦で答えたときに考えた、あなたの今の目標や夢は何ですか。

学校評価 保護者アンケート 〈キャリア教育に関連した設問〉

- ①自分の考えや思いを進んで話している。
- ②友達を大切に、思いやりの心を持って行動している。
- ③何事も最後まで頑張っている。
- ④進んで家庭学習をしている。
- ⑤進んでお手伝いや家庭での役割をしている。
- ⑥学校は地域の施設や近隣の学校と連携し、キャリア教育の取組を工夫している。

教職員対象のアンケート

キャリア教育に関するアンケート(教師用)

年

◇ 4月からの11月までの取り組みであなたの学級の児童の様子を振り返って、成果と課題について当てはまる番号に○をつけてください。
4:十分達成している 3:ほぼ達成している 2:あまり達成していない 1:努力を要する

1 下記の内容について評価して下さい。「あなたの学級の児童は、～」

順	評価内容	評価
①	自分から意見を発表して、学習を進めている。	4 3 2 1
②	グループ活動では、友達と話し合ったりして、学習を進めている。	4 3 2 1
③	友だちの気持ちや考えを大切に、協力したり助け合ったりしている。	4 3 2 1
④	友だちの考えのよさを生かして、自分の考えを深めたり見直したりしている。	4 3 2 1
⑤	あまりやる気が起きないことや、苦手なことにも進んで取り組んでいる。	4 3 2 1
⑥	「学習問題(課題)」を解決するために、自分から進んで資料や情報を集めて学習を進めている。	4 3 2 1
⑦	自分の目標をもち、それを実現しようと計画的に努力している。	4 3 2 1
⑧	友だちのさまざまな考えの中から、よいと思うものを自分で決めている。	4 3 2 1
⑨	自分の役割の大切さを考え、積極的に学習に取り組んでいる。	4 3 2 1

2 以上の結果から、重点的に力を付けさせたい項目の番号を2つ選んでください。

3 具体的な授業の場面で成果(～な力が付いた)と課題(～なところを育てたい)を記入して下さい。

成果	
課題	

ポイント

4 来年度のキャリア教育の重点目標として、次の①～④の中でどれがよいでしょうか
★学級の課題に合ったものを1つ、学校全体の課題を考えた場合のものを1つ選んで、○をつけて下さい。

	学級では	学校全体では
① 自分及び他者の大切さに気づき、家庭や友達・周囲の人々にかかわりながら積極的に働きかけようとする子		
② 身のまわりには様々な仕事がたくさんあることに気づき、そこに働いている人の思いや願いを探ろうとする子		
③ 得意なことや好きなことを生かして将来なりたい自分の姿を描いたり、目標を持ったりすることを通して、できることをやり尽くそうと努力する子		
④ 係活動やお手伝いなど、その場で自分にできることを見つけて進んで実践しようとして、目標をもって努力したりする子		

これらを分析材料として次年度のキャリア教育の全体計画や年間指導計画に反映させます。

アンケートを活用して経年変化をみた例

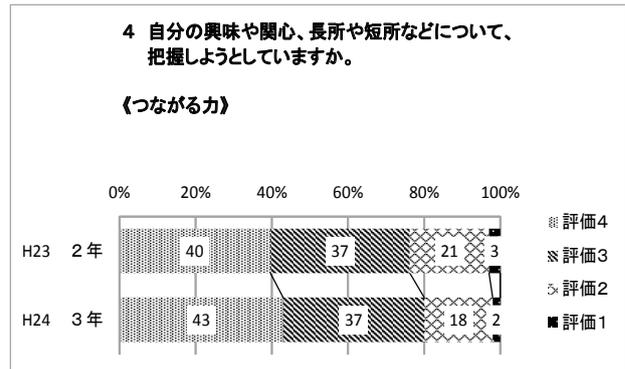
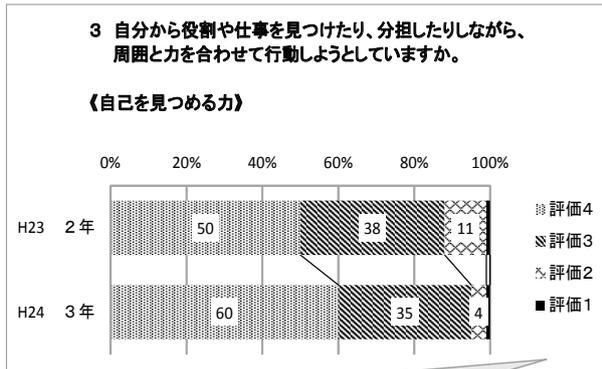
青森市立東中学校

■ポイント

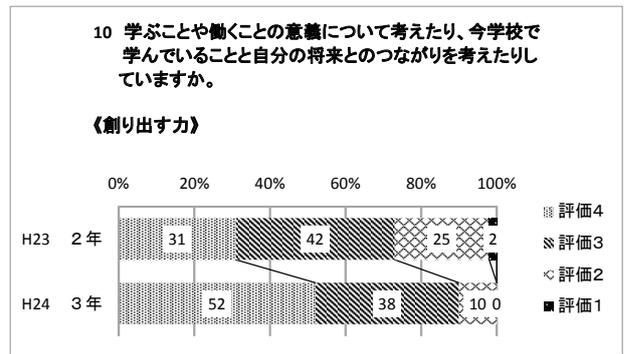
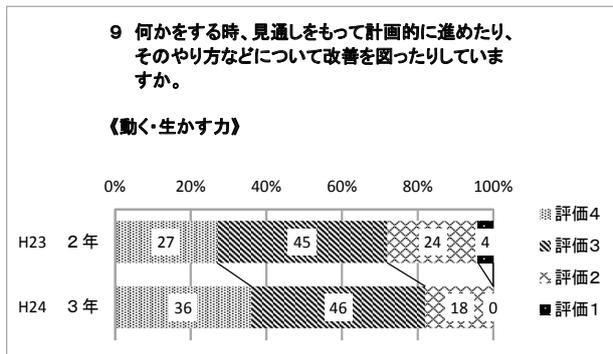
- ・2年間、同じアンケートを二学期末に実施し、経年変化を見て、指導に役立てます。
- ・生徒のキャリア教育に関わる資質・能力・態度の変容が分かります。

1 対象 平成22年～24年度入学生徒

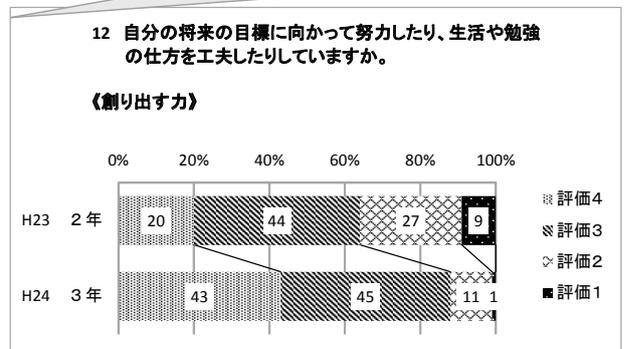
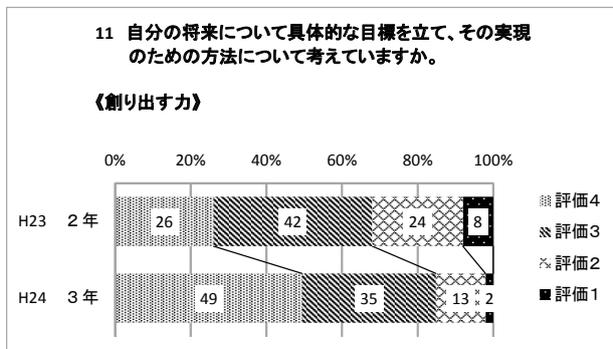
2 調査結果 対象学年生徒の平均値の経年変化(調査項目の一部を記載)



行事での縦割活動におけるリーダー、フォロワーの育成が実を結んでいます。



3年生ということもあり、高校の体験入学や、高校生によるキャリア講話、日常的な進路指導の結果が顕著に表れています。



○分析の際に明らかになった課題を具体化することで育成すべき資質・能力・態度を重点化し、共有します。

○浮かび上がった課題が解決された後の「目指す生徒の姿」を共通理解し、「目指す生徒の姿」を次年度のキャリア教育の全体計画や年間指導計画に反映させましょう。

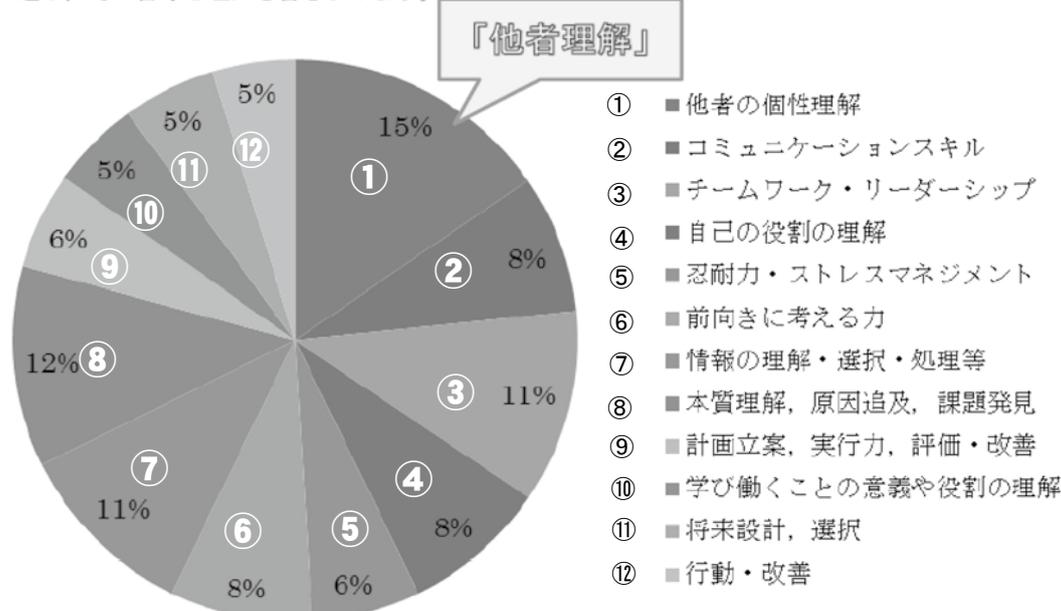
アンケートを活用して過去の自分を振り返った例

青森県立青森工業高等学校

■ポイント

- ・キャリア教育に関わる資質・能力・態度の他に独自の項目を設けています。
- ・自分の中学校時代を振り返ることで、自己分析ができています。

◎ あなたが中学校の時に学んだ事の中で、今とても役に立っていると思うことを、上の①～⑫から選び、その番号と理由を書きましょう。



- ① 人の意見を聞くことによって自分の考えの幅も広がる事が多くなった。
相手の考えていることを理解して自分の間違いに気づけるから。
- ② 面接の時も役立ったし、これから社会に出てからも役に立つから。
- ③ いろいろな行事を通して周りの人と協力できるようになったから。
みんなで何かを作ったりするのが楽しいと感じた。何かをしていないと「つまらない」。
- ④ 「自分の得意なこと」を見つけたおかげで自分にできることがより分かってきた。
- ⑤ 辛くてもやることはやりきることを学んだおかげで、小中でついたサボり癖が直った。
- ⑥ 諦めることがあまりなくなった。
中学校の不得意な教科の勉強をがんばったおかげで今は成績がいい。
- ⑦ ときどきレポートなどでしらべなければならぬときに、しらべ方などが分かるから。
今でも知りたいと思ったことは何でも聞いて自分の知識を増やしている。
- ⑧ 次を失敗しないから、どんどん成長できるから。
- ⑨ 行事があるときにしっかり考えたお陰でスムーズに行ったから。
テストなど計画的にやってきたおかげで今とても役立っている。
- ⑩ 目標を持つことは大切だし、目標があるから今この高校で学び、志望する大学への合格に向けて頑張れるから。
資格を取りたくて工業に来て、資格をそこそこ取れたから。
- ⑪ 部活でエースになりたいと思って一生懸命努力してなれたときに努力のしがいがあったって強く思える。
- ⑫ テストや資格の勉強をするときに、勉強の仕方をしっかり考えることができたから。

○地域で連携している小中学生に紹介することで自分の将来を考えるよい資料になります。